

学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

Special Feature

vol. **97** 2026
夏号

新理事が就任しました
令和7年度 公立大学法人
奈良県立医科大学決算が公開されました



なかよし保育園 盲導犬ふれあい体験



奈良県立医科大学
Nara Medical University

Contents

特集

就任の挨拶	3
令和7年度 公立大学法人奈良県立医科大学決算	3
女性研究者・医師支援センターの体制が新しくなりました	4
先端医学研究支援機構だより	5
MBT研究所だより(第41報)	6
図書館だより	7
国際交流センターだより vol.24	8
病院経営対策本部の取り組み	9
看護部の紹介	10
Topics	10

Campus News

在宅看護特別教育プログラムを修了しました	11
新入生オリエンテーションを実施しました	11
高度医療技術修得者の認定証交付式について	11
令和8年度保健師就職合同説明会を開催しました	11
ホスピタルラボ(子ども向け医療体験イベント)を開催しました	12
MBT 特命教員による学生への特別講義	12
奈良 IMAT 協定締結	13
AI × NO-CODE 入門セミナーを開催しました	13
白衣授与式を開催しました	13
NARA 医工連携イニシオを開催しました	13
ならコープ健康大学にて MBT 講義をしました	14
第8回わい和いNARA在宅サポート研究会研究発表会を開催いたしました	14
第5回奈良メディカルラリー開催	14
大学院看護学研究科のオープンキャンパス2026を開催しました	15
病院経営に関する特別講演会を開催しました	15
本学卒業生・三宅冬人先生による「医の探求入門」特別客員講義を開催	15
責任ある研究活動のための研修会を受講してください(Web 動画)	15
第3回おしゃれターバンケア帽子体験会を開催しました	15

Winner Report

第45回日本画像医学会のレントゲンカンファレンスにおいて優秀賞を受賞しました	16
第36回日本間脳下垂体腫瘍学会で研究奨励賞を受賞しました	16
日本老年麻酔学会第38回学術集会において学会賞を受賞しました	16
リバネス研究アワード(先端研究推進部門)受賞	16
NPO法人日本口腔科学会学術集会で若手優秀ポスター賞を受賞しました	17
DEN Open best reviewers awards for 2025を受賞しました	17
日本神経学会賞(学術研究部門)を受賞	17
国際ソロプチミスト奈良―あすか女性研究者賞を受賞されました	17
ICE2026/JES2026において日本内分泌学会第27回若手研究奨励賞を受賞しました	18
ICE2026/JES2026においてBest Poster Presentation Awardを受賞しました	18
ハーバード公衆衛生大学院の博士課程に合格・進学が決定し、フルブライト奨学金等の大型奨学金に採択されました	18
日本ALS協会・「ALS基金」研究奨励金に採択されました	18
第33回中島佐一学術研究奨励賞の授賞式を開催しました	19
第15回奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞の授賞式を開催しました	19
第57回奈良外科学会学術大会で優秀演題賞を受賞しました	19
第122回日本精神神経学会学術総会で精神科専門医研修中医師部門の優秀発表賞を受賞しました	19
第122回日本精神神経学会学術総会で2025 PCN Reviewer Awardを受賞しました	19
令和8年度 文部科学省科学研究費助成事業の決定	20
未来への飛躍基金だより	25

Information

大学院入試日程	26
編集後記	26
公開講座情報	27

寄附者ご芳名

「未来への飛躍」基金にご協力いただきありがとうございました	27
未来への飛躍基金だより	27
メディア掲載情報	28

就任の挨拶



渉外戦略担当理事 笠原 正登

この度6月1日付けで渉外戦略理事を拝命いたしました。奈良医大に赴任して10年になります。この間、悲願でもありましたが、特定機能病院の最上級の能力要件の一つである早期臨床試験（人工赤血球の医師主導試験）の実施体制が整備された大学になり、奈良医大の開発力を世に示すことが出来ました。

奈良医大を取り巻く環境はこれまでにない厳しいものです。10年後の存続のためにはしっかりと戦略と着実な成果が必要です。これまでの10年間の経験を活かしながら、本学の将来のために精一杯努力いたしますのでご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

令和7年度 公立大学法人奈良県立医科大学決算

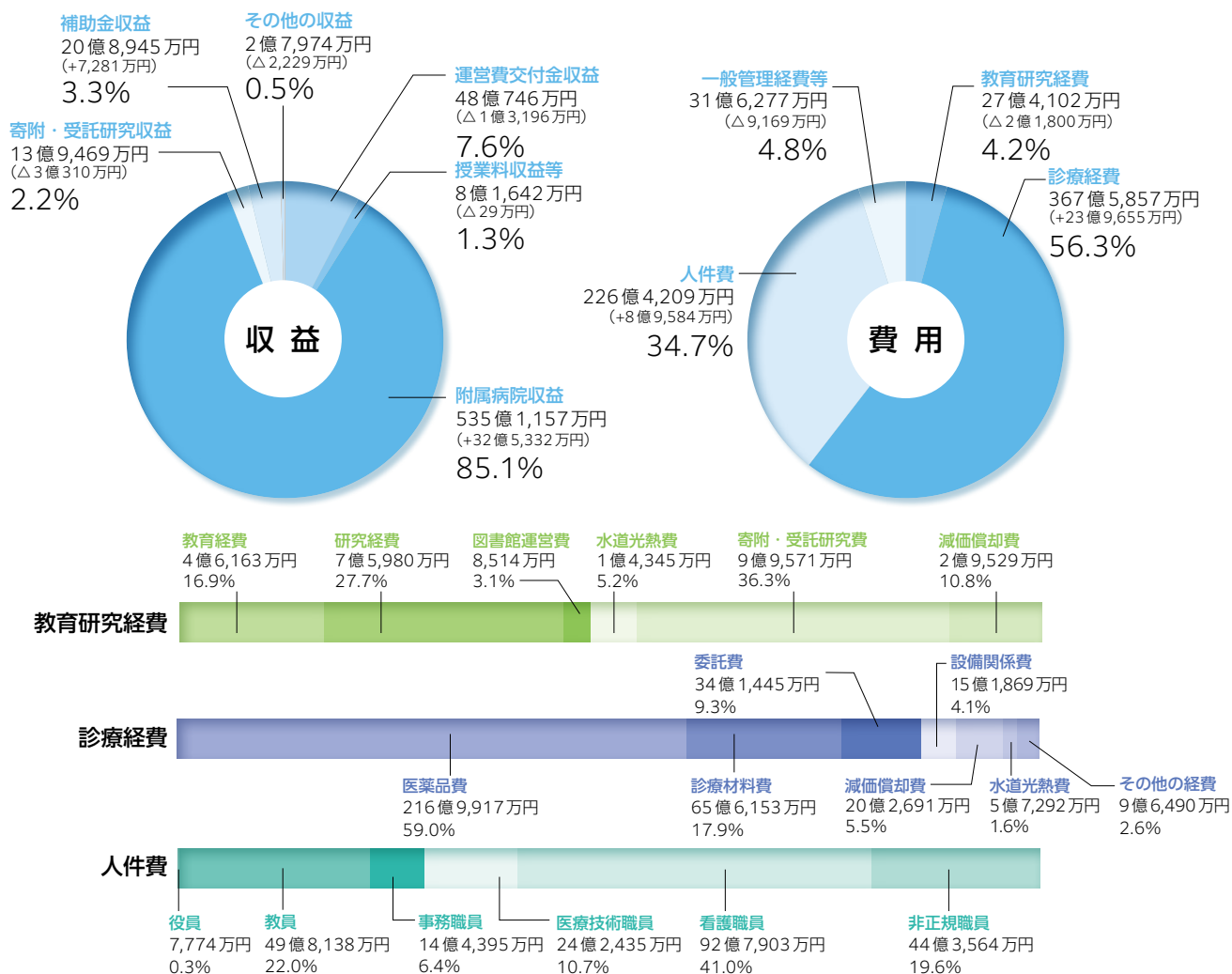
令和7年度決算 収益/628億9,933万円(+28億6,849万円) 費用/653億445万円(+29億8,270万円)

差引 24億512万円の赤字(R6 22億9,091万円赤字) ※ () 内は前年との増減額

令和7年度は、病床運用の効率化等による入院患者数や入院単価の増、外来単価の増等により附属病院収益が増加しました。一方で、患者数増や高度医療実施に伴う診療経費の増、人事委員会勧告によるベースアップ等で人件費が増加したことにより、24億円の赤字となり、昨年度の22億円の赤字より収支が悪化しました。

今後も診療報酬改定等により附属病院収益の増収は見込めるものの、一方で、人件費や診療経費、総合医療情報システムの更新や施設設備改修による経費の増加が見込まれ、経営状況がさらに厳しくなることが予想されます。

皆さまには引き続き経費節減など経営改善に向けた取り組みへのご協力をよろしくお願い申し上げます。



女性研究者・医師支援センターの体制が新しくなりました

平成 23 年の設立以来、医学部長がセンター長を務めてきましたが、令和 8 年 4 月 1 日付からは嶋緑倫学長のご決断で、組織体制をさらに強化するために専任のセンター長を配置する新体制へと移行しました。また、臨床現場における女性医師活躍を加速するために、女性医師の実情に詳しい内田優美子病院教授（NICU）が新たにセンター運営委員に就任しました。

奈良県立医科大学「女性研究者・医師支援センター」の 更なる発展を期待して

学長 嶋 緑倫



日頃より本学の「女性研究者・医師支援センター」の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

センターの基幹事業である「研究支援員配置事業」では、令和 2 年度から令和 7 年度までに 22 名の女性研究者を支援し、そのうち半数の 11 名が助教採用や講師・准教授への昇任を果たすなど、着実な成果を挙げています。また、若手女性医師への支援対象拡大や、科研費申請支援事業により、令和 7 年度には医学科女性教員の競争的資金獲得率は令和 2 年度の 39.4% から 45.7% へと向上し、本学の研究力強化に大きく貢献しています。

臨床現場における女性の活躍もめざましく、常勤女性医師数は令和 2 年度の 131 名から令和 7 年度には 155 名へと増加しました。さらに、女性医局長数も令和 2 年度の 3 名から令和 8 年度には 8 名へと大幅に増加しており、要職への女性参画が進展していることは大変喜ばしいことです。

一方で、准教授以上の教官職がまだ少ないという課題も残されています。女性教職員数の少ない教室におかれましては、ぜひ教室全体で男女共同参画推進の機運を高めていただくようお願い申し上げます。こうした課題の解決に向け、本年度 4 月より、本学の教育研究に関する最上位の審議機関である教育研究審議会にセンター長が参画することになりました。今後は、センターの活動や現場の声を大学の方針決定プロセスに直接反映させ、大学全体で課題を共有し、更なる発展へと繋げていく所存です。

これからの医療は、デジタル化や新たなテクノロジーの導入など、大きな変革の時代を迎えています。次世代の医療や研究のイノベーションを牽引するためには、多様な視点がかかせません。本センターはこれからも、女性研究者・医師のキャリア継続とステップアップを全力で支援し、多様性が真の強みとなるダイバーシティ環境の構築を目指してまいります。

皆様のさらなるご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

新センター長のご挨拶

教育教授 須崎 康恵



このたび、女性研究者・医師支援センターのセンター長を拝命いたしました。

本センターは平成 23 年の設立以降、女性研究者・医師の増加を目標に掲げ、1) 女性研究者・医師を対象とした研究支援、2) 男女共同参画およびダイバーシティ推進のための啓発・広報活動、3) 男女共同参画に基づくキャリア教育、4) ジェンダーに関する研究、5) 相談業務の 5 つを活動の柱としています。

法人の自主財源で運用を開始した平成 26 年度以降の 10 年間で、本学研究者の女性割合（H26 年度 24.5% → 令和 7 年度 29.8%）、医学科教員の女性割合（14.3% → 19.2%）、常勤で働く女性医師数（84 人 → 155 人）、医学部女性教員の競争的資金獲得割合（29.7% → 49.5%）が増加する等、医師・研究者の男女共同参画は着実に進んでいます。今後、医学科教員の女性割合を早期に 30% へ近づけられるように、関係各所と協力して上記の 5 つの活動を充実させて参ります。皆さまには引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

奈良県立医科大学女性研究者・医師支援センター運営委員会委員名簿

（令和 8 年 6 月 1 日現在）

役 職	氏 名
女性研究者・医師支援センター長	須崎 康恵
総務・経営 担当理事	西橋 奈穂
医学部長	堀江 恭二
疫学・予防医学 教授	佐伯 圭吾
腎臓内科学 教授	鶴屋 和彦
産婦人科学 教授	木村 文則
総合周産期母子医療センター 新生児集中治療部門（NICU） 病院教授	内田 優美子
在宅看護学 教授	小竹 久実子

奈良県立医科大学女性研究者・医師支援センター教職員名簿

（令和 8 年 6 月 1 日現在）

センターでの職名	氏 名	所 属
センター長	須崎 康恵	女性研究者・医師 支援センター 教育教授
コーディネーター	裏山 悟司	生物学 講師
コーディネーター	長井 美奈子	消化器・総合外科学 学内講師

先端医学研究支援機構だより

研究力向上支援センターからのお知らせ

令和8年度第1回AMED獲得セミナーを開催しました

昨年度のセミナーに引き続き、2026年5月29日(金)に塩塚政孝先生(AMED 橋渡し・臨床加速事業部 主幹)を講師に迎えて、AMED外部資金獲得に向けたセミナーを開催しました。講師の塩塚先生は、基礎から臨床までの研究段階に応じた切れ目のない支援メニューと橋渡し研究支援機関(拠点)が伴走して研究開発を推進することの特徴とする「橋渡し研究プログラム」事業で、アカデミア発の革新的医療技術の実用化に尽力されてきました。今回は、『AMED研究費提案における出口設定と逆算思考』～マグリットの「透視」に潜む、実用化への論理的必然」と題してご講演いただきました。AMEDの研究提案では、「斬新なアイデア」に加えて、そのアイデアをどのように社会に届けるのかという「完成図」を明確に描くことが求められます。本講演では、この完成図から逆算して提案書を作成する「バックキャスト」の重要性や、提案書記載における具体的キーポイント等について、これまでの経験を踏まえた実践的なお話を伺う貴重な機会となりました。また、講演に先立って、本学の研究者の先生方との面談の機会も設けることができ、昨年度に引き続いてAMED外部資金の獲得に向けて大変有意義な時間となりました。



講師 AMED
塩塚政孝 主幹

医学研究支援センターからのお知らせ

動物実験施設における研究支援活動

本学動物実験施設では、適正な動物実験実施のための国際原則 3Rs (Replacement, Reduction, Refinement) に基づいた研究活動を促進していくために、利用者に対して様々な取り組みを行っております。

- (1) 生殖工学技術受託事業
 - (2) 動物実験基本手技トレーニング講習
 - (3) 動物実験コンサルティング
 - (4) **New** 細胞・生体イメージングコアラボ(2026年11月スタート予定)
- (1)、(2)、(3)、(4)について、詳しくは動物実験施設へお問い合わせください。

お問い合わせ 医学研究支援センター動物実験施設 内線 2566、2611 E-mail larc@naramed-u.ac.jp



組換え DNA 実験 教育訓練の開催ならびに最近の主なルール変更

本学では、安全に組換え DNA 実験を実施するため、毎年教育訓練を受講していただいています。本年は4月に計8回(新人教育2回、再教育6回)開催しました(図)。今後も必要に応じて随時開催しますので、受講希望の方はご連絡ください。

最近の主なルール変更内容は以下です。

- (1) 総合研究棟以外での P2/P2A 実験が申請可能に
- (2) 非従事者でも、組換え DNA 実験施設への入室申請が可能に

今後も皆さまと力を合わせ、より安全な組換え DNA 実験環境を築いてまいります。
ご意見やご要望、ご不明点など、ぜひお聞かせください。

お問い合わせ 研究推進課/医学研究支援センター 組換え DNA 実験施設 E-mail genetics@naramed-u.ac.jp



RI 登録(放射線業務従事者登録)の適正化について

現在、総合研究棟5階が RI 管理区域となっているため、RI 実験を行わない方でも「将来的に入室する可能性があるため」との理由で、登録されるケースがあります。しかし、登録者の半数以上が半年以上入室していない状況です。RI 登録者は法令に基づく教育訓練、健康診断および被ばく管理の対象となるため、RI 登録の適正化にご協力をお願いいたします。

RI 登録が必要な方は、① RI 実験に従事する方、② 総研5階での作業が継続的に予定され、月1回以上の入室が見込まれる方、③ 学外放射線施設利用のため登録が必要な方です。

上記に該当しない方は、一時立入り制度をご利用ください。現在、共通機器や冷凍庫等の管理区域外への移設を進めており、今後も非 RI 実験従事者が管理区域へ立ち入らずに研究できる環境整備を進めてまいります。

MBT研究所だより(第41報)

1. 新所長就任

4月1日、細井前理事長の後を引き継いで嶋理事長がMBT研究所第2代所長に就任されました。なお、MBTコンソーシアム理事長は細井先生が引き続き務められています。この新体制の下でMBT活動は新たなスタートを切りました。

2. 奈良医大発ベンチャー

- (1) モルミル株式会社(代表取締役: 森英一朗准教授)は、「Forbes Japan 4月号」に社会的に注目され、価値ある企業として掲載されました。記事には「『全国に十数人の「科学顧問」、創業のマッチングプラットフォームへ』～ひとりの研究者の構想から始まった創業プラットフォームは筋萎縮性側索硬化症(ALS)を起点に、難病治療薬開発のプロジェクトを次々に生み出そうとしている～」との紹介文がついています。同誌は、世界的なビジネス誌Forbesの日本版で、国内外で認知される影響力のあるメディアです。
- (2) 3月20日、株式会社MBTジョブレオーネ(代表取締役: 岡山弘美氏)の活動が関西テレビ「news ランナー」で紹介されました。番組では、障害者雇用コンサルタントとして岡山氏が、障害を理由に過度な配慮で指導が甘くなるところを注意したり、特性を踏まえて異動を提案したりする状況などが放映されました。
- (3) 3月27日、MBTリンク株式会社(代表取締役: 梅田智広研究教授)、那須町、那須赤十字病院、北関東総合警備保障株式会社の4者が、「MBT構想推進に関する連携協定」を締結しました。同協定は、MBTリンクが推進するライフスタイルセンシングやAI等のDXを活用することで、医療水準の向上や那須町の医療連携を促進し、これにより町民の健康の維持増進と安全安心な生活向上を図り、街の活性化や定住人口の増加に貢献することを目的にしております。



森英一朗准教授



MBT 構想推進に関する連携協定締結式

3. 波形連携システム－tsunagu－つなぐ・MBT®

患者緊急時、アラームとともに生体波形も確認できるスマホ波形連携システムである「波形連携システム－tsunagu－つなぐ・MBT®」の本学附属病院病棟への導入が進んでおり、6病棟で稼働しております。患者が病室を離れ家族と面会中に突如発生した重症不整脈に、アラームを聞いた担当ナースが波形を確認し、急ぎ現場へ駆けつけていのちを救った事例も報告されています。いのちを救う本システムは県内外の病院からの関心も高く、既に兵庫県内の病院に導入されました。

2月22日には、モバイル関連機器の使用を中心に、患者の医療安全の確保を議論する「第3回モバイルモニタリング研究会」が開催されました。今回の研究会テーマは「急変時対応チームの今後」で、特別講演・教育講演・一般演題・企業講演が行われ、54名が参加しました。



モバイルモニタリング研究会の模様

4. 難病になっても展

5月23日、東京都立中央図書館で、NPO東京難病団体連絡協議会の「難病になっても展」が開催されました。「MBT みんなで守るいのちの映画祭」のこれまでの表彰作品から3本が上映されました。



「難病になっても展」会場の模様

学外からのデータベース利用〔学内者限定〕

図書館では様々なデータベースを契約しています。皆さんはどんなものがあるかご存じでしょうか。文献検索ツール、電子ブック/電子ジャーナルが閲覧できるもの、診療に役立つもの、などなど。基本的にはこれらすべて、学内限定でご利用いただいております。しかし実は、ご自宅や外出先でも使える方法があるんです！今回はその方法についてご案内いたします。

※データベースすべてが学外から利用できるわけではありません。提供元より許可されている一部のみです。

データベースが使える仕組み

図書館で契約している有料データベースは学内環境であればどの端末でも利用できます。これはシステムが「ネットワーク回線」によって利用者を判別しているからです。学内LANやキャンパスネットにつながっていることで、データベースの提供元が「奈良県立医科大学の所属者（契約者）」であると判断しています。そのため原則、ご自宅のWi-Fiやキャリアのネットワークからはご利用いただけません。

しかし裏を返せば、ネットワーク回線「以外」の方法で「契約者」であることを示すことができれば学外でも利用ができるのです。この方法を「リモートアクセス」と呼びます。

ID/パスワードによるリモートアクセス

【対象】メディカルオンライン、医書.jp、PierOnline〔癌と化学療法〕、医中誌Web、最新看護索引Web、CINAHL Complete
ログイン時に専用のIDとパスワードを使うことで、契約者であることを示す方法です。IDとパスワードは学内専用サイトで確認できます。

- ①図書館 HP の「学習サポート」をクリック
- ②【「リモートアクセス用ID/PW ページ」】をクリック
- ③学外で使いたいデータベースのIDとパスワードを控える
- ④学外で図書館 HP からデータベースにアクセスし、控えたIDとパスワードでログインする



※「メディカルオンライン」について

「メディカルオンライン」は「My ページ」アカウントを作成後、「リモートログイン」から利用できます。アカウント作成は学内、または③のページにあるIDとパスワードでログインした状態で行ってください。なお図書館で提供しているIDとパスワードでは本文の閲覧・ダウンロードはできません。

詳しくは二次元コード先 (https://www.naramed-u.ac.jp/library/documents/remote_access.pdf) の説明資料をご覧ください。



アカウント登録によるリモートアクセス

【対象】Maruzen eBook Library、ProQuest Ebook Central、Wiley Online Library、Journal Citation Reports、Essential Science Indicators、今日の臨床サポート、UpToDate、DynaMed

学内からアカウント登録をすることで、そのアカウントが契約者であると示す方法です。登録方法はデータベースによって異なるため、各マニュアル等を読んで行ってください。なお、データベースによっては登録が大学メールアドレス限定、定期的な学内からのログインが必要など条件がありますのでご注意ください。

- ①図書館 HP の「学習サポート」をクリック
- ②アカウント登録をしたいデータベース名をクリック
- ③説明やマニュアルを確認してアカウント登録をする
- ④学外で図書館 HP からデータベースにアクセスし、登録したアカウント情報でログインする



ジャーナル VPN システムによるリモートアクセス

【対象】「VPN 登録アドレス一覧」参照

保存先：奈良県立医科大学情報推進サイト＞情報システム・ネットワーク＞ジャーナル VPN システム＞申請書（様式番号 4-2 の「用途」欄）

ジャーナル VPN システムとは「公衆回線を通じて学外から電子ジャーナルを利用するためのシステム」です。こちらに登録いただき、利用するデバイスに専用アプリをダウンロードします。そして利用したいときに起動すると、どこにいても学内と同様の使い方ができます。※ジャーナル VPN システムの登録・接続に関するお問い合わせは情報推進課へお願いいたします。データベース・電子ジャーナルについては図書館でお受けいたします。

- ①奈良県立医科大学情報推進サイトにアクセス
(例：奈良県立医科大学 HP → 画面右下の「教職員の方へ」→ 画面下部の「情報推進サイト」)
- ②「情報システム・ネットワーク」をクリック
- ③「ジャーナル VPN システム」をクリック
- ④「VPN 利用登録・変更・削除申請書」をダウンロードして記入し、情報推進課に提出
- ⑤登録完了の連絡が来たら、アプリを入れて接続する。
マニュアルは④と同ページの「マニュアル類一覧」に掲載されています。
- ⑥接続ができれば図書館 HP から使いたいデータベース・電子ジャーナルにアクセス

国際交流センターだより vol.24

リサーチ・クラークシッププログラム海外派遣学生の帰国後報告会と研究成果報告会を開催しました(2026年4月24日)

2026年1月～3月に、2年次で海外7施設へ派遣された現3年生8名による帰国後報告会および2025年1月～3月に、2年次で海外1施設へ派遣された現4年生1名による研究成果報告会が4月24日に行われました。この日は、海外での研究活動を目指す1,2年生も参加し、その体験談を熱心に聞いていました。9名の報告は、海外で活動をやり遂げた充実感と自信に満ちあふれており、それぞれが海外で得た貴重な体験を、今後の研究や学びに活かしてくれることを期待しています。



研究報告会授賞式



〈帰国後報告会の報告者と派遣先施設一覧〉

尾崎 祐太	Department of Medical Genetics, University of Alberta Faculty of Medicine and Dentistry (Yokota Lab) (カナダ)
片山 俊	The Ohio State University Wexner Medical Center (Taniguchi Lab) (アメリカ合衆国)
野原 千紗子	The Ohio State University Wexner Medical Center (Taniguchi Lab) (アメリカ合衆国)
中村 春香	Cell Proliferation and Gene Editing Unit Okinawa Institute of Science and Technology Graduate University (OIST) (日本)
柴田 結心	Kamada Laboratory, Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, University of Michigan Medical School (アメリカ合衆国)
田中 文康	Bethany Moore Lung Immunobiology Lab University of Michigan Medical School (アメリカ合衆国)
片山 恒	National Taiwan University and National Taiwan University Hospital (Department of Internal Medicine) (台湾)
朱 英里	National Taiwan University and National Taiwan University Hospital (Department of Surgery) (台湾)

〈研究成果報告会の報告者と派遣先施設一覧〉

原田 昌	Molecular Genetics of Ageing Max Planck Institute for Biology of Ageing (ドイツ)
------	---

令和8年度海外留学助成金 厳樞学術奨励賞の受賞者が決定しました(2026年5月19日)

令和8年度厳樞学術奨励賞の受賞者が決定しました。この賞は、母校の発展の一助とするため、海外での学術の研究、調査等に従事する大学院医学研究科の博士課程に在学する院生、大学教員、医員に対し、本学の医学部医学科同窓会がその費用の一部を助成金(100万円)として支給しているものです。

選考の結果、今回の受賞者は、消化器・総合外科学の小原 有一朗 非常勤医師に決定しました。小原先生は2025年12月1日から2年間の予定で、アメリカのオクラホマ大学の Stephenson Cancer Center に留学されています。

受賞者の声



平成27年卒の小原有一朗です。2025年より米オクラホマ大学で脾癌のCART細胞療法研究に従事しており、この度本賞を拝受しました。熱心にご指導くださる庄教授をはじめ、奈良医大同窓会の皆様にこの場を借りて深く御礼申し上げます。

令和8年度前期若手研究者国際学会発表助成事業の助成者が決定しました(2026年6月3日)

令和8年度前期若手研究者国際学会発表助成事業の助成者は、右記の6名の方々に決定しました。

この事業は、若手研究者の国際学会等での発表の機会を増やし、国際的に活躍できる人材の育成を推進することにより本学における研究活動の一層の活性化を図るため、30万円を上限として往復運賃相当額及び宿泊費相当額を助成するものです。

年2回募集しておりますので、皆さまの積極的なご応募をお待ちしています。

氏名(順不同)	職名	所属
尾山 雅文	医員	消化器内科学
青木 宏諭	助教	総合周産期母子医療センター
島崎 翌	医員	脳神経内科学
鈴木 渉太	学内講師	臨床研究センター
橋本 匠	医員	皮膚科学
河原 直紀	助教	産婦人科学

病院経営対策本部の取り組み

附属病院経営の健全化による 持続可能な医療の提供のために

病院経営対策本部の設置と背景（吉川病院長からのメッセージ）



附属病院を取り巻く経営環境は、現在、非常に厳しい局面にあります。令和8年度の収支計画案では約10億円の赤字が見込まれており、前年度からの継続的な赤字の解消と、経営改善が急務となっています。特にキャッシュフローの改善は、将来にわたる最新医療設備の導入や老朽化対策、そして教職員の皆様が安心して研鑽に励める環境を維持するために、避けて通れない重要な課題です。

この難局を乗り越え、病院経営をより安定した強固なものにするため、本学では令和8年4月1日、附属病院長直轄の組織として「病院経営対策本部」を設置しました。本部長には庄病院長補佐が就任し、令和10年3月31日までの2年間で集中取組期間として、全学を挙げた収支改善活動を推進します。

■診療主任（経営）の任命

経営改善を単なるスローガンに終わらせず、各診療現場の実情に即した施策を実行するため、新たに「診療主任（経営）」という役職を創設しました。

1 診療主任（経営）とは

診療科やコメディカル部門などの各所属における「経営課題解決を主体的に行う者」です。これまでの病棟医長や外来医長といった枠組みを超え、所属長と連携しながら経営課題を特定し、改善策の立案と実行、所属内への周知、進捗管理等を担います。

診療主任（経営）には、病院経営対策本部会議の4つの「課題別検討グループ」の議論に参画していただき、病院全体の課題や各所属の個別課題をそれぞれに対してリーダーシップを発揮することが期待されています。

上田先生のコメント 県民の皆様にとっての医療の最終ディフェンスラインである奈良医大附属病院を自分たちで守るという強い覚悟を持ち、経営改善に関わる各取り組みを牽引してまいります。

■本年度に最優先で取り組む事項

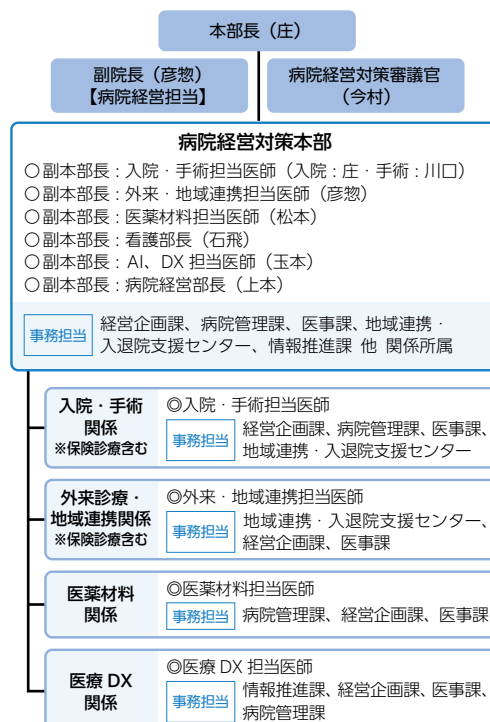
令和8年4月と5月に開催された本部会議で次のとおり決定しました。

課題検討別グループ	特に優先するべき課題（取組目標）	今後の取り組み内容
外来診療・地域連携関係	●新規外来患者の増加に向けた目標設定及び具体的な施策の検討・実施	●各診療科での外来初診の拡充
入院・手術関係	●全病床稼働率93%の達成・維持（7対1病床の平日稼働率は96%） ●手術件数の増加 ●診療報酬の適切な算定に向けた取り組み（教育、研修含む） ●令和8年度診療報酬改定への対応	●予定入院患者の拡充 ●手術枠の効率的な運用（インターバルの短縮など） ●保留・返戻レセプトの解消
医薬材料関係	●医薬品及び診療材料について、コスト管理の強化対策の実施 ●備品購入、管理業務の適正化の推進	●物品の統一化や集約化を診療科横断的に実施 ●一般廃棄物の約14倍の処理費用がかかる「感染性廃棄物」の適正な分別
医療DX関係	●事務の効率化とそれに伴う経営改善に役立つ医療DX施策の構築と推進	●院内携帯電話（PHS）に代わるスマートフォンの導入

全教職員の皆様へ（庄本部長からのメッセージ）

今回の経営対策は、附属病院が将来にわたって高度な医療を提供し続け、職員の皆様が安心して働ける環境を守るための、避けて通れない取り組みです。診療主任（経営）を中心に、全職員一丸となってこの難局を乗り越えていきましょう。

病院経営対策本部の体制



診療主任（経営）任命式



病院経営対策本部会議の様子



看護部の紹介

令和8年度 春の叙勲 瑞寶単光章受章

元看護副部長 八木 尚美

この度、本院において長年看護職の発展と地域医療の向上に多大なる貢献をされた、元看護副部長の八木尚美氏が、春の叙勲において瑞寶単光章を授与されました。長年にわたる献身的なご功績が国に認められましたこと、病院関係者一同、心よりお慶び申し上げます。

八木氏は、長きにわたり本院の看護現場において患者様一人ひとりに寄り添う誠実な看護を実践されるとともに、看護管理職としても卓越したリーダーシップを発揮されました。特に、看護師の教育体制の構築や働きやすい職場環境の整備においては、常に現場の視点に立ち、スタッフが誇りを持って働ける礎を築かれました。その温かなお人柄と、看護に対する妥協なき姿勢は、多くの後輩看護師にとっての道標となり、その精神は現在の本院の看護文化として深く根付いております。



石飛看護部長より 本院看護部一同、これまでの歩みに深く敬意を表しますとともに、今回の受章を誇りとし、今後も奈良県の高度急性期医療を支える病院としてさらなる飛躍を目指して邁進してまいれる所存です。今回の受章は、看護職に従事するすべての者にとって大きな励みとなりました。末筆ながら、今後ますますのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

トピックス

Topics

医療情報システムの安全管理に関するガイドラインが第7.0版に — 医療 DX 時代に求められる安全管理の新たな指針 —

戦略的医療情報連携推進講座 教授／医療情報部 部長 玉本 哲郎

厚生労働省は令和8年6月に「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第7.0版」を公表しました。本ガイドラインは、医療DXの推進やサイバー攻撃の高度化を背景として改訂されたものであり、電子カルテをはじめとする医療情報システムを安全かつ継続的に運用するための基本指針です。従来の「情報システム管理の考え方」から一歩進み、「患者安全」、「診療継続」、「病院経営」を支えるガバナンスの指針として位置付けられていることが大きな特徴です。

近年、ランサムウェアによる医療機関への攻撃やシステム障害による診療停止が国内でも多発し、情報システムの停止が医療提供に直接影響を及ぼしています。そのため、ガイドラインでは、医療情報の「機密性」、「完全性」、「可用性」の3要素を維持することを基本とし、特に診療を止めないための可用性の確保と、障害発生時の迅速な復旧体制の整備を重視しています。

今回の第7.0版では、「概説編」、「経営管理編」、「企画管理編」、「システム運用編」、「保守委託機関編」の5編で構成されています。**病院長や設置者には、情報セキュリティ方針の策定、組織体制や人材・予算の確保、リスク評価、教育、監査などを継続的に実施する責任が求められています。**情報セキュリティは情報部門だけの課題ではなく、経営層が主体的に取り組むべき病院全体の課題であることが明確に示されています。

また、**システム運用では、個人IDによる認証、最小権限の原則、多要素認証の導入、アクセスログの管理、ソフトウェアの更新、バックアップ、ネットワーク分離など、多層的な対策を継続的に実施することが求められます。**多要素認証の適用対象がより具体化されるとともに、パスワード管理についても最新の考え方にに基づき見直しが行われています。

さらに、**新たに「保守委託機関編」が追加され、システム保守を外部委託する医療機関では、保守事業者との責任分担やリモート保守時の認証、作業記録、緊急時対応などを契約で明確にすることが求められるようになりました。**医療機関だけでなく、委託先を含めた安全管理体制を構築することが重要なポイントとなっています。

加えて、**電子カルテ停止やサイバー攻撃、自然災害を想定したIT-BCP（情報システムに関する事業継続計画）の整備も重要な柱です。平時から紙運用への切替や復旧訓練を実施し、診療継続体制を確保することが求められています。**

医療DXの進展に伴い、クラウドサービスや全国医療情報プラットフォームなどの新たな情報基盤の活用が進んでいます。こうした環境変化に対応するためにも、安全管理は医療の質と患者安全を支える重要な基盤となります。

本学でも第7.0版の趣旨を理解し、経営層、医療情報部門、医療従事者、事務部門、保守委託事業者が連携して、継続的な改善に取り組むことがより一層必要となっています。

3.10

在宅看護特別教育プログラムを修了しました

「在宅看護特別教育プログラム」4期生の長尾海春さんが、6年間の全プログラムを修了し、3月10日に小竹在宅看護学教授から、修了したことを証する「修了証」が手渡されました。

このプログラムは、将来の奈良県における「在宅看護を牽引するリーダー」を育成することを目的に、大学と病院、訪問看護ステーションが連携して卒前・卒後の一貫した特別教育を提供するものです。看護学科3年生～4年生の2年間は、授業終了後の夜間に講義や演習を受講し、卒後3年間は医大職員として附属病院勤務や訪問看護ステーションに出向しての看護実践、4年目は希望する施設の職員として就業しながらプログラムを受講する継続教育となっています。

今後、このプログラムで得た幅広い知識やアセスメント力を活かし、地域での療養生活を支えながら、在宅看護力の高い人材育成に寄与することを期待しています。



小竹教授と長尾さん



修了証授与式の様子

4.6
4.7

新入生オリエンテーションを実施しました

医学科111名、看護学科85名を対象に4月6日と7日にかけて先生方による講話、授業や学生生活に関するガイダンスを行いました。

また、医学科は20日、看護学科は9日に新入生歓迎会を行い、先輩から大学生活について説明を聞いた後に各グループに分かれて自己紹介を行い、盛り上がっていました。

両学科とも新入生同士、先輩との交流が深まり、新しい生活に向けて充実した時間を過ごしました。



3.30

高度医療技術修得者の認定証交付式について

本院では、平成22年6月から医療機器の多様化・高度化に対応できる、専門性の高い臨床工学技士「高度医療技術修得者」を全国に先駆けて独自で養成しています。また、平成30年4月からは、本学大学院看護学科研究科修士課程に「周麻酔期看護師教育課程」を設置し、「周麻酔期看護業務に関する高度医療技術修得者」を養成しています。

今回、臨床工学技士1名及び看護師1名が課程を修了し、認定審査を経て、3月30日に吉川病院長から認定証が交付されました。お二人を含めて、現在13名の臨床工学技士と2名の看護師が、高度医療技術修得者として麻酔科医と共に周術期領域で活躍し、医師の働き方改革におけるタスクシフトの推進に貢献しています。



左：臨床工学技士（麻酔アシスタント業務）米田和琴
右：看護師（周麻酔期看護業務）石田愛結

4.14

令和8年度保健師就職合同説明会を開催しました

公衆衛生看護学領域が主催し、県内初となる保健師就職合同説明会が開催されました。奈良県庁および県内14自治体から人事担当者と保健師が出席し、看護学科1～4年生58人が全自治体から説明を受けたあと、質疑応答が行われました。保健師志望学生にとって自治体HPだけでは知ることのできない行政保健師の活動や自治体の魅力を直接聞くことのできる機会となりました。奈良県の公衆衛生を支える行政保健師の養成と県内就職の橋渡しとなる説明会は来年度も開催予定です。



3.14 ホスピタルラボ (子ども向け医療体験イベント) を開催しました

3月14日、本学職員の子どもたちを対象とした「ホスピタルラボ」を開催し、職員26名、小学生36名にご参加いただきました。本イベントは、子どもたちに医療の魅力や楽しさを体験してもらうことを目的として企画されたものです。年明け早々に参加申込の受付を開始したところ、想定を上回る反響があり、募集開始からわずか1日で定員に達する盛況ぶりとなりました。

当日は、「血管迷路ゲーム」「静脈採血ゲーム」「手術ゲーム」「診断ゲーム」などの体験型プログラムに加え、「病院ツアー」を実施しました。子どもたちは楽しみながら積極的に取り組み、医療への関心を深める様子が見られました。保護者の方からは、「とても楽しかったようで、次は満点を取りたいと意気込んでいます」「次はいつ参加できるのかと何度も聞かれています」といった声や、「満点が取れなかったことを悔しがる姿に成長を感じました」といった感想が寄せられました。また、運営に携わった医学生からは、以下のような声がありました。「医療知識のない子どもたちに手技を伝える中で、相手の反応を見ながら言葉を選び、わかりやすく説明することの重要性和難しさを実感しました。」「子どもたちが静脈採血やIVR手技などに挑戦し、楽しみながら医療に触れている姿が印象的でした。体験を通して医療を身近に感じられるこのような機会に関わることができたことを嬉しく思います。」

本イベントは、子どもたちだけでなく、参加した医学生にとっても学びの多い機会となりました。今後も引き続きホスピタルラボを開催していく予定ですので、ぜひ多くの皆様にご参加いただければ幸いです。



左から、医学科5年生垣本さん、太田さん



終了後の集合写真

4.20 MBT 特命教員による学生への特別講義

本学では、MBTの目標である産業と医学を結びつけ、イノベーションを起こす実力又は実績があると認められる方にMBT特命教員の称号を授与しています。現在、6名の方々にMBT特命教員に就任いただいております。ご自身の豊富な人生経験をもとに毎年1回本学の学生に、幅広い視野を持てるよう講義をいただいております。今回は下記4名の先生の講義をご紹介します。

4.20 MBT 特命教授 (DMG 森精機 代表取締役) 森 雅彦

「DMG 森精機の経営ビジョン」をテーマに、世界トップクラスの工作機械メーカーとしての事業展開や経営理念について講演されました。また、半導体や医療分野への取組や地域産業振興への貢献について紹介されるとともに、「体力・気力・学力」の重要性や、「よく遊び、よく学び、よく働く」という人生訓を交えながら、学生たちに広い視野を持つことの大切さを伝えられました。



4.27 MBT 特命教授 (元城南信用金庫理事長) 川本 恭治

全国有数の信用金庫である城南信用金庫の取組を紹介するとともに、信用金庫と医師はいつでも「困っている人を助ける」という共通の使命を担っていると述べられました。また、「生きるとは、一番身近な人から充実した素晴らしい人生だったと言ってももらえる人生である」との言葉を送り、学生たちを激励されました。



5.25 MBT 特命教授 (元パナソニックホールディングス取締役会長) 長榮 周作

「剣道と経営」をテーマに、剣道と企業経営で培った経験をもとに人生哲学を語られました。また、「守・破・離」の考え方や「攻防一体」の重要性を紹介するとともに、「素直で正しい心で行動することが徳につながる」と述べ、学生たちに自律的に学び挑戦することの大切さを伝えられました。



6.8 MBT 特命教授 (ファッションデザイナー) コシノ ジュンコ

「好奇心が出会いを生み、人生を豊かにする」と述べ、何事にも興味を持ち積極的に行動することの大切さを語られました。また、医師は自らが心身ともに健康であることや、人を思いやる心を持つことが重要であると強調されました。さらに、「感謝・希望・健康・行動」などを人生の教訓として紹介し、学生たちに温かいエールを送りました。



5.1 奈良 IMAT 協定締結

5月1日 奈良県警察本部と「奈良 IMAT (事件現場医療派遣チーム)」協定を締結しました。

【アイマッって??】

IMAT (Incident Medical Assistance Team) は、人質立てこもりやバスハイジャックなどの凶悪事案において、医師や看護師が現場近くに出動・待機し、救出直後から負傷者の状態確認や応急処置、トリアージ (治療の優先順位付け) を行い、救命率の向上を図るために結成されるチームです。事件現場という危険性の高い状況下では、警察と医療の緊密な連携が不可欠となり、両者が一体となって活動できる体制が求められます。

奈良県では初の取り組みで、県民の生命を守る新たな基盤として、平時からの訓練や体制強化に努めていきたいと思います。



5.12 AI × NO-CODE 入門セミナーを開催しました

5月12日、本学産学官連携推進センター主催による「AI × NO-CODE 入門セミナー」を開催しました。本セミナーは、本学教職員・学生に加え、他大学関係者も対象として実施され、計36名が参加しました。講師には takeforest 株式会社代表取締役の竹森洸征氏を迎え、NO-CODE の基礎知識や医療・教育現場における活用事例、各種ツールの紹介が行われました。また、参加者は実践ワークショップを通じて、自身の PC を用いた業務自動化の構築を体験し、AI やデジタル技術を活用した新たな業務改善の可能性について理解を深めました。



講師の竹森洸征氏
(takeforest 株式会社代表取締役)



実践型セミナーの様子

5.26 白衣授与式を開催しました

5月26日に、看護学科1年生86名を対象に白衣授与式を執り行いました。

学生は白衣を着用し、教員による身だしなみ指導を受けたうえで式に臨み、1年生を代表して総代の山上さんが、演習や実習に臨むことへの意気込みを話しました。

また、川上看護学科長と坂東看護教育部長から激励のお言葉があり、白衣を身にまとうことの意味を理解し、本学でしっかりと看護について学んでほしいとメッセージが送られました。

学生は凜然とした姿で式に参加しており、これから白衣を着用して学んだことを社会に出て実践する様子が想像でき、学生の将来が楽しみにになりました。



意気込みを話す総代



授与式後の記念撮影

4.14 5.13 6.16 NARA 医工連携イニシオを開催しました

本学と奈良先端大が共同で設立した一般社団法人奈良先端医工科学連携機構による「NARA 医工連携イニシオ」の第8回、第9回、第10回がオンライン配信にて開催されました。本事業は両大学の研究連携を深化させることを目的としたリレー形式の定期セミナーで、毎月第2週に開催をしております。

4月は奈良先端大 ナノ高分子材料研究室 網代広治 教授に「医療応用を指向した新しい分解性の高分子合成」と題して、医療における多領域でのポリマー材料の可能性と今後の材料開発の方向性について講演いただきました。5月は本学 免疫学 伊藤利洋 教授に「難病克服への新機軸 — 医科大学の『臨床・基礎・産学・医工連携』プラットフォームが拓く免疫研究」と題して、呼吸器疾患における病態解明を研究テーマとし、ヒトにおける科学的証明・産学連携を通じた社会実装について講演いただきました。6月は奈良先端大 分子免疫制御研究室 河合太郎 教授に「自然免疫を標的としたワクチンアジュバントの開発」と題して、自然免疫を基盤としたワクチンアジュバント開発の取組と、医療応用に向けた研究について講演いただきました。どの講演にも多数の参加があり、質疑応答では活発な議論が行われました。開催については、一斉メールにてお知らせいたします。皆様のご参加お待ちしております。

6.5

ならこーぷ健康大学にて MBT 講義をしました

健康の実感と運動の機会を県民に提供する「ならこーぷ健康大学」が 6 月 5 日にリーベル王寺東館 5 階で開催されました。

1 時限目の実技は、基本的な運動・測定、椅子を使ったストレッチヨガを実施。2 時限目の公開講座に MBT 研究所 梅田副所長が「これからも元気に過ごすために～今日からできる生活の工夫～」をテーマに、自分らしく健康的な生活できるよう日頃から健康づくりを意識してほしいと講義。情報は知るだけでも行動に違いが出ることもあるので、参加者の皆さまにとって前向きな変化が生まれることを期待したいです。

今後もイベント等を通じて、健康とまちづくりをテーマに地域コミュニティを深め、積極的に取り組んでまいります。



講義される梅田副所長



ストレッチヨガ体験の様子

6.6

第 8 回わい和い NARA 在宅サポート 研究会研究発表会を開催いたしました

今年は、「共に支えを強める新たなカタチー自分の中の“ちから”と“支え”に気づく」をテーマに開催されました。小竹久実子会長の開会の辞に続き、大会長（久保田千代美氏・ChiyomiKubotaCare 研究所）より、「老いや弱さは人の価値を奪わず、存在そのものが誰かの支えになる」という内容の講演が行われました。続くシンポジウムでは「わたし発、支え行き」をキーワードとし、「人生 100 年を自身や他者の関係で生きている途中」（平島氏・辻村病院）、「私とみんなの支え愛」（医療的ケアが必要な高校生）、「自己喪失から再び社会の一員へ」（難病療養者）、「わたしにとっての支え」（阪本氏・へいせいとかとりクリニック）と題した発表が行われました。さらにポスター発表や事例検討も行われ、医療・介護・福祉職をはじめ、教員、一般市民など計 114 名の方々にご参加いただきました。参加者からは「魅力のある会だった」「心が温まった」と多くの反響が寄せられ、盛会となりました。



6.6

第 5 回奈良メディカルラリー開催

メディカルラリーは、医師・看護師・救急救命士で構成されるドクターカー隊を想定したチームが、実際の救急現場を再現したシナリオに挑戦する現場型トレーニングです。各シナリオでの活動は評価され、その総合得点を競います。

奈良県では 2015 年に第 1 回を開催し、その後の新型コロナの影響による中断を経て、2026 年 6 月 6 日に 7 年ぶりとなる第 5 回大会を開催することができました。会場となった奈良県立医科大学畝傍山キャンパスでは、参加者から施設や畝傍山を望む景観への好評の声が聞かれました。



今大会には、奈良県内から 10 チーム、沖縄・四国・九州など県外から 11 チームの計 21 チームが参加しました。参加者は、中毒患者、多数傷病者、分娩・新生児蘇生、避難所支援、在宅患者、家屋倒壊、外傷・心肺停止患者への対応など、全 8 ブースに挑戦しました。今回のテーマは「つなぐ」とし、多職種連携や次世代への継承を意識し、各ブース長にシナリオを作成いただきました。

メディカルラリーでは、多職種によるチームワークも重要な評価項目です。全 8 ブースの合計点により、総合優勝は奈良県西和医療センターと奈良県広域消防組合で構成された「Say “輪” ～ West Harmony of NARA ～」となりました。同チームは、この日、医師・看護師・救急救命士によるチームワークがひととき光っていました。

当日は、参加者、評価者、ボランティアスタッフなど総勢 650 名を超える皆様のご協力により開催することができました。特に、畝傍山キャンパスの事務職員をはじめ、多くの教職員の皆様には温かいご支援とご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。今後も継続的な開催を通じて、奈良県の救急医療の発展に貢献してまいります。



6.13

大学院看護学研究科のオープン キャンパス 2026 を開催しました

大学院看護学研究科のオープンキャンパスを6月13日に開催しました。今年は49名にご参加いただき、大盛況に終わることができました。プログラムとしては、「看護学研究科長の挨拶」、「コースの概要説明」、「個別相談会」、「先輩との座談会」等を行いました。参加者からは、「大学院の事を楽しそうに話されていたのが印象的でした」や「授業や研究について詳しく教えていただきイメージができました」などの感想が聞かれました。

令和9年度の入学試験は、8月24日(月)(二次募集：12月1日(火)※)に実施されます。

※一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。



オープンキャンパスの様子

6.19

病院経営に関する特別講演会を開催しました

6月19日に病院経営に関する特別講演を戦略的医療情報連携推進講座と医療情報部の共催で開催しました。本学の招聘教授でもある千葉大学医学部附属病院 副病院長・病院経営管理学研究センター長・特任教授の井上貴裕先生を講師にお迎えしました。講演では、奈良県内の病院における実際の経営・医療提供データを用いながら、人口減少時代に求められる大学病院の経営戦略について、具体的かつ実践的な解説が行われました。当日は学長の嶋先生にもご参加いただき、病院経営や地域医療の将来像について活発な質疑応答と意見交換が行われ、参加者にとって大変有意義な学びの機会となりました。



6.22

本学卒業生・三宅冬人先生による 「医の探求入門」特別客員講義を開催

6月22日、医学科1年生を対象とした「医の探求入門」において、本学卒業生の三宅冬人先生を客員講師に迎え、特別講義を開催しました。昨年AI作成のコンテストで世界一になった三宅先生は、現在、福島県の病院で内科医として診療に携わる一方、AIエンジニアとしても国内外で活躍されています。

当日は「現場で開発する これからの医療 AI の可能性」をテーマに、学生時代の経験、AIを学び始めた経緯、臨床現場から生まれる医療AI開発の意義、今後の展望についてご講演いただきました。参加した学生にとって、医学とAIが融合する時代における多様なキャリアを考える貴重な機会となり、講義後も活発な交流が続きしました。



6.24

6.25

責任ある研究活動のための研修会 を受講してください (Web 動画)

6月24・25日に畝傍山キャンパス大講義室及び四条キャンパス厳櫃会館3階大ホールにおいて「責任ある研究活動のための研修会及び経理事務等説明会」を開催しました。研修を通じて研究倫理や公的研究費の適正な執行に対する理解を深めました。質疑応答も行われ、日頃の疑問点を解消する機会となりました。

本学では、公的研究費の運営・管理に関わる全ての構成員がコンプライアンス教育を受講する必要があります。受講対象者で、対面開催に参加できなかった方は、8月31日までWEB上で動画を公開していますので、視聴いただき、必ず理解度チェックテストを受けてください。公開二次元コードはこちらです。



6.24

第3回おしゃれターバンケア帽子 体験会を開催しました

MBT コンソーシアム会員である(株) Bonrich (代表取締役：フルサワケエコ氏)のご厚意により、昨年秋に多数のおしゃれターバンをご寄附いただきました。これを有効活用するため、奈良県立医科大学附属病院に入院・通院されているがん患者さんをはじめ、ご家族や支援者の方々を対象に、ターバン帽の着用体験会を附属病院がん相談支援センターにて実施し、参加者へターバン帽子を進呈する取組を昨年11月より開始しています。今回はその第3回として開催しました。当日は、案内チラシをご覧になった方や館内放送を聞いて関心を持たれた方、診察や薬の待ち時間に立ち寄られた方など、さまざまな方にご参加いただき、18名の参加がありました。参加者の中には、外来受診のため来院されたお母様と一緒に来られたお子様がターバンを可愛らしく着用され、会場が和やかな雰囲気にも包まれる場面も見られました。



参加者にターバンの巻き方をレクチャーするフルサワケエコ氏(左)とがん相談支援センター職員(中央・右)

Winner Report

2.27 第45回日本画像医学会のレントゲン 2.28 カンファレンスにおいて優秀賞を受賞しました

放射線診断・IVR学 医員 渡邊 紘英

2月27日～28日に開催された第45回日本画像医学会のレントゲンカンファレンスにおいて優秀な成績を収め、表彰していただきました。日本画像医学会は、放射線・病理・臨床のトライアングルを基本理念に掲げ、各分野のエキスパートが連携して、多面的な画像診断学の発展を目指す学会です。恒例のレントゲンカンファレンスでは、興味深い症例がクイズ形式で出題され、参加者が正解数を競う恒例企画となっています。

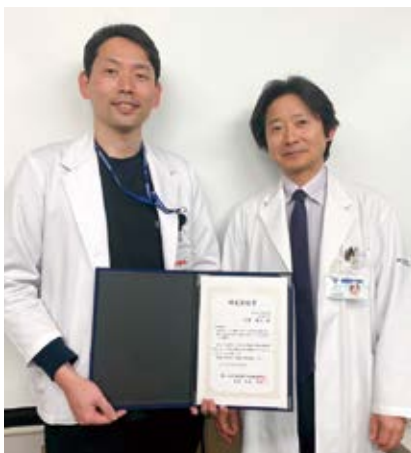
日頃よりご指導いただいている奈良県総合医療センター 放射線診断科 部長 高濱潤子先生、貴重な機会を与えていただいた奈良県立医科大学 放射線診断・IVR学 講座 教授 田中利洋先生に厚くお礼申し上げます。



3.5 第36回日本間脳下垂体腫瘍学会で 3.6 研究奨励賞を受賞しました

脳神経外科学 助教 中瀬 健太

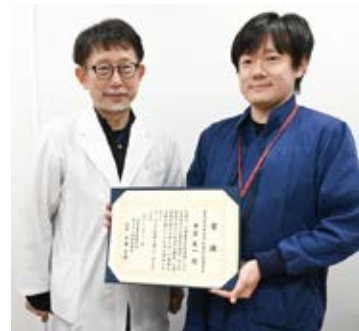
3月5日～6日に開催された第36回日本間脳下垂体腫瘍学会で研究奨励賞を受賞しました。演題は「症候性ラトケ嚢胞に対する経鼻内視鏡手術後の中長期予後と再発予測因子」です。本研究では下垂体前葉の位置に着目し再発予測が可能であること、特定タイプで従来法の再発率が高いことを示し、その新規性をご評価いただきました。ご指導いただいた中川一郎教授、西村文彦准教授をはじめ共同研究者の皆様へ感謝申し上げます。



2.28 日本老年麻酔学会第38回学術集会 において学会賞を受賞しました

麻酔科学 学内講師 甲谷 太一

2月28日に開催された日本老年麻酔学会第38回学術集会において「心臓血管外科周術期におけるプレハビリテーション介入研究」という演題により、学会賞である福島賞を受賞いたしました。本受賞の対象となった取り組みは、「入院・手術前からのリハビリテーション」＝「プレハビリテーション」によって、心臓血管外科手術をうける患者さんの術後アウトカムは改善するのかを調査した研究になります。本分野はまだ発展途上ではありますが、今後も心臓血管外科手術を受ける患者さんのアウトカム改善を目指し、継続して臨床研究を進めてまいります。本賞を賜うことができたのは、ご指導をいただきました麻酔科川口先生、位田先生、内藤先生をはじめ、麻酔科学教室の諸先生方、本研究を立案いただきました井上聡己先生（現福島県立医科大学麻酔科学講座教授）、ならびに本研究の遂行にあたりご協力をいただきました多くの医療スタッフのみなさまのご支援の賜物です。ここに謹んでご報告いたしますとともに、みなさまに厚くお礼申し上げます。



3.7 リバネス研究アワード (先端研究推進部門) 受賞

未来基礎医学 准教授 森 英一朗

超異分野学会 東京2026において、「サイエンスにインパクトをもたらす、独創的な研究を推進している」研究者に贈られる「リバネス研究アワード(先端研究推進部門)」を受賞しました。また、授賞式に続き、「分子の動きを見たい!」と題して基調講演を行いました。分子の動きを捉えることでALSなどの神経難病の病態を解明し、治療薬の開発へと繋げて参ります。



4.18

NPO 法人日本口腔科学会学術集会で 若手優秀ポスター賞を受賞しました

口腔外科学 医員 財前 美希

4月16日から18日に開催された第80回NPO法人日本口腔科学会学術集會にて、「口腔扁平苔癬患者の口腔細菌叢に対する抗歯周病菌抗体配合洗口液の効果－探索的単群介入試験－」を発表し、若手優秀ポスター賞を受賞しました。抗歯周病菌抗体配合洗口液を1日2回、4週間使用した結果、口腔細菌叢の多様性を大きく損なうことなく、歯周病関連菌を含む細菌叢構成に一定の影響を及ぼす可能性が示唆されました。

今回の受賞に際し、ご指導を賜りました柳生先生、ならびに平素よりご支援をいただき、発表当日には会場にお越しくださり見守って下さいました山川先生および野上教授に、深く感謝いたします。



5.8

DEN Open best reviewers awards for 2025を受賞しました

消化器内科学 講師 北川 洸

この度DEN Open Best Reviewers Awards for 2025を受賞致しました。DEN Openは日本消化器内視鏡学会のofficial journalで、同じくofficial journalであるDigestive Endoscopyの姉妹誌として2021年に創刊されました。論文の査読は匿名のボランティア行為ですが、このような形で評価いただけたことに深い喜びを感じております。

日頃御指導いただいている先生方、ならびにDEN Open関係各位の皆様、この場を借りて厚く御礼申し上げます。今後も公正かつ建設的な査読を心掛け、内視鏡学の発展に少しでも寄与したいと思います。



5.21

日本神経学会賞(学術研究部門) を受賞

未来基礎医学 准教授 森 英一郎

第67回日本神経学会学術大会の授賞式において、「日本神経学会賞(学術研究部門)」を受賞しました。この度の業績課題名は、「相分離研究を通じたALSの病態解明と新規治療薬の開発」としました。本学・脳神経内科学、関係機関の先生方、御支援をいただきました全ての関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。治療法を待つALS患者さんのために、一日も早い上市を実現すべく、研究開発を着実に進めて参ります。



5.28

国際ソロプチミスト奈良―あすか 女性研究者賞を受賞されました

国際ソロプチミストは、女性と女性の生活を向上させるための奉仕活動を行い、世界の様々な女性の地位向上を目指す組織です。国際ソロプチミスト奈良―あすかクラブでは、将来性のある研究を行う優秀な女性を表彰する目的で女性研究者賞を創設しています。本学からは、奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞を受賞した研究者を毎年推薦しています。

この度、小児科学講座の野上恵嗣教授ならびに女性研究者・医師支援センターから推薦を受けた大西智子助教が、「包括的凝固/線溶動態に基づく敗血症性DIC(播種性血管内凝固)の病態解明」という研究テーマで、国際ソロプチミスト奈良―あすか女性研究者賞を受賞されました。



(左) 国際ソロプチミスト奈良―あすか 会長 和田奉子様
(右) 小児科学講座・臨床研修センター 大西智子先生

Winner Report

6.2

ICE2026/JES2026において日本内分泌学会 第27回若手研究奨励賞を受賞しました

糖尿病・内分泌内科学 助教 紙谷 史夏

6月2日～6日に京都で開催されたICE2026/JES2026において、「Cancer Type-Specific ICI-Related Endocrine Abnormalities and Impact on Survival」を発表し、日本内分泌学会第27回若手研究奨励賞(YIA)を受賞しました。本研究では、日本人約21万人のICI投与患者コホートをを用いて、内分泌irAEのがん種特異的なリスクと生存への影響を解析し、がん種や内分泌サブタイプによる違いを明らかにしました。ご指導いただいた高橋裕教授をはじめ関係の皆様に深く感謝申し上げます。

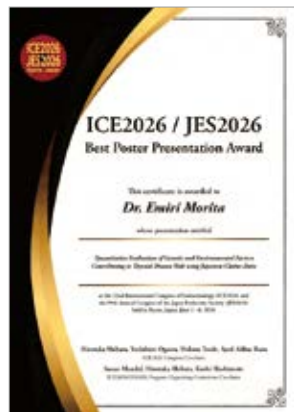


6.2

ICE2026/JES2026においてBest Poster Presentation Awardを受賞しました

公衆衛生学 大学院博士課程 森田 えみり

6月2日～6日に開催されたThe 22nd International Congress of Endocrinology / The 99th Annual Congress of The Japan Endocrine Society (ICE2026/JES2026)にて、Best Poster Presentation Awardを受賞しました。本研究「Quantitative Evaluation of Genetic and Environmental Factors Contributing to Thyroid Disease Risk using Japanese Claims Data」では、レセプトビッグデータ解析により甲状腺疾患発症リスクに寄与する遺伝因子および環境因子の定量的検討を行いました。今回の受賞を励みに、今後も社会医学の発展に貢献できるよう一層精進してまいります。ご指導いただきました高橋教授、今村教授をはじめ、共著者の先生方ならびに研究活動を支えてくださった全ての皆様に心より感謝申し上げます。



6.5

ハーバード公衆衛生大学院の博士課程に合格・進学が決定し、フルブライト奨学金等の大型奨学金に採択されました

公衆衛生学 特任助教 竹下 沙希

ハーバード公衆衛生大学院 (Harvard T.H. Chan School of Public Health) の博士課程 (Population Health Sciences: Epidemiology) に合格し、2026年秋からの進学が決定しました。ハーバード公衆衛生大学院は世界中の疫学研究者が読む教科書を執筆・出版するなど、疫学分野を長年リードしてきた学術機関です。博士課程では疫学研究における因果推論手法の改良と、その臨床疫学への応用に携わりたいと考えています。また、受験に伴いフルブライト奨学金等、複数の大型奨学金に採択いただき、光栄に思っております。

今後は疫学者として公衆衛生学・医学の発展に貢献する所存です。学生時代から現在までご指導くださった今村教授、西岡先生をはじめ、公衆衛生学講座の皆様、そして今まで私を支えてくださった全ての方々に深く感謝申し上げます。

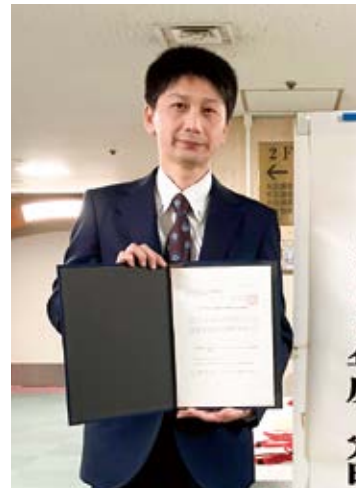


6.6

日本ALS協会・「ALS基金」 研究奨励金に採択されました

未来基礎医学 助教 五十棲 規嘉

この度、「亜鉛フィンガードメインに着目した筋萎縮性側索硬化症(ALS)の分子病態機構の解明」と題した研究課題が、日本ALS協会・2026年度「ALS基金」研究奨励金(100万円)に採択され、授与式に参加しました。ALSは運動神経が障害されることで筋力低下や筋萎縮が進行する難病です。現在も有効な治療法が確立されておらず、病態の解明と新たな治療戦略の開発が求められています。本研究では、昨年発表した「ALS原因タンパク質の凝集を阻害する機能」を持つ亜鉛フィンガードメインに着目し、ALSで生じるタンパク質凝集の制御破綻を再現するモデルの構築を通じて、ALSの病態を明らかにすることを目指します。



6.8

第33回中島佐一学術研究奨励賞の授賞式を開催しました

今回の受賞者は輸血部の酒井和哉講師、循環器内科学の中田康紀助教の2名で、受賞者にはそれぞれ賞状、記念品の盾及び研究奨励金が授与されました。

表彰式後、酒井講師が「血栓性血小板減少性紫斑病治療における Unmet Medical Needs とどう戦うか」、中田助教が「心腎連関と酸化ストレス制御に着目した心不全の分子病態解明と予後予測因子の確立」と題して講演が行われました。

この賞は、故中島佐一名誉教授のご遺族からの寄附金を財源として、医学の学術研究に優れた業績をあげた本学の若手教員に授与し、さらなる研究の発展を奨励することを目的としています。毎年、各所属に応募要項を案内していますので、若手教員の積極的な応募をお待ちしています。



前列：左より中田助教、嶋学長、酒井講師
後列：左より彦惣教授、堀江医学部長、吉川病院長、松本教授

6.8

第15回奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞の授賞式を開催しました

女性研究者学術研究奨励賞は、優れた研究成果を挙げた本学の女性研究者を顕彰し、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成と男女共同参画の促進等に資することを目的に、平成23年度に創設されました。

第15回の受賞者は整形外科学/地域医療支援・教育学講座の川崎佐智子講師で、授賞式にて賞状、記念品の盾及び研究奨励金を授与しました。授賞式後、川崎佐智子先生による「頸椎症性脊髄症の痺れの可視化」と題した講演を行いました。



前列：左より川崎講師、嶋学長、河村教授
後列：左より須崎女性研究者・医師支援センター長、堀江医学部長、吉川病院長

6.8

第57回奈良外科学会学術大会で優秀演題賞を受賞しました

消化器・総合外科学 医員 原 知里

このたび、5月16日に開催された第57回奈良外科学会学術大会において「肺癌集学的治療の20年間における手術成績の変遷と今後の課題」で優秀演題賞を受賞いたしました。当科での肺癌治療を振り返り、予後改善を目指した取り組みについて発表させていただきました。今回の受賞を励みにより一層精進してまいります。日頃よりご指導いただいております、庄教授をはじめ、多くの先生方にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。



6.19

第122回日本精神神経学会学術総会で精神科専門医研修中医師部門の優秀発表賞を受賞しました

精神医学 医員 本多 祐也

このたび、第122回日本精神神経学会学術総会において、精神科専門医研修中医師部門の優秀発表賞を受賞いたしました。本受賞は、日頃よりご指導いただいている先生方のお力添えによるものであり、心より感謝申し上げます。今後も日々の診療に真摯に取り組み、研鑽を積むとともに、学術活動にも積極的に取り組んでまいります。



6.19

第122回日本精神神経学会学術総会で2025 PCN Reviewer Awardを受賞しました

精神医学 助教 法山 勇樹

精神医学分野の国際学術誌 *Psychiatry and Clinical Neurosciences* の査読実績が評価され、日本精神神経学会より「2025 PCN Reviewer Award」を受賞しました。今回の受賞は、日頃よりご指導いただいている先生方や共同研究者の皆様のお力添えによるものであり、心より感謝申し上げます。引き続き研究・教育・診療に加え、学術活動にも積極的に取り組んでいきます。



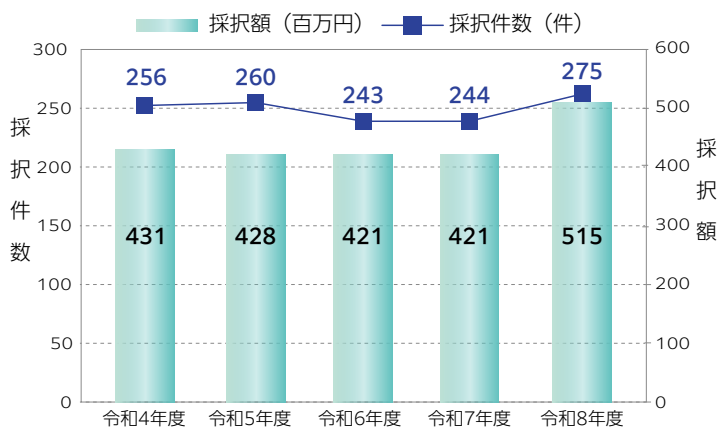
Winner Report

令和8年度 文部科学省科学研究費助成事業の決定

令和8年度 科学研究費助成事業(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金(文部科学省、独立行政法人日本学術振興会))が決定しました。令和8年5月1日現在の状況は下記のとおりです。

来年度においても積極的な応募申請をよろしくをお願いします。

	採択件数 (件)	採択額 (千円)	直接経費	間接経費
令和8年度	275	515,450	396,500	118,950
令和7年度	244	420,990	324,060	96,930
令和6年度	243	421,460	324,200	97,260
令和5年度	260	428,470	332,800	95,670
令和4年度	256	431,160	332,100	99,060



令和8年度 文部科学省科学研究費助成事業(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)一覧

研究種目	教室名 (R8.5.1)	職名 (R8.5.1)	氏名	研究課題名	開始年度	終了年度
学術変革領域研究 (A) 役員		理事長・学長	嶋 緑倫	止血異常症・血栓症に対する精密高分子を用いた治療方法の創出	2025	2028
学術変革領域研究 (A) 発生・再生医学		助教	長岡 創	ZNF518A による生殖ライフスパンの制御機構	2026	2027
学術変革領域研究 (A) 生化学		教授	中村 修平	リソソーム pH 攪乱に対処する細胞応答機構とその老化における役割の解明	2026	2027
学術変革領域研究 (A) 役員		理事 (教育・研究担当)	堀江 恭二	複合的遺伝子操作によるマウス全能性状態の in vitro 再構築	2026	2027
基盤研究 (A) 公衆衛生学		教授	今村 知明	医療・介護・健診連結データを用いた意思決定に資するリアルワールドエビデンスの構築	2023	2027
基盤研究 (A) 化学		教授	酒井 宏水	一酸化炭素を結合した人工赤血球の投与による虚血再灌流傷害の制御と救命効果の向上	2026	2030
学術変革領域研究 (B) 微生物感染症学		准教授	王寺 幸輝	肝胚人工発育モデルの確立と感染制御への挑戦ー in vitro 発育システムの開発ー	2026	2028
基盤研究 (B) 公衆衛生学		学内講師	西岡 祐一	医療・介護・健診連結ビッグデータを用いた内分泌代謝疾患のリアルワールド解析	2022	2026
基盤研究 (B) 在宅看護学		教授	小竹 久美子	喉頭全摘出者の退院後の QOL 向上を目指す継続看護チームの介入：RCT による縦断調査	2023	2027
基盤研究 (B) 役員		理事 (教育・研究担当)	堀江 恭二	自律的な初期胚形成が可能な全能性状態の誘導	2024	2027
基盤研究 (B) 生化学		教授	中村 修平	生殖と寿命のバランス制御の中核を担う組織間情報伝達カスケードの解明	2024	2026
基盤研究 (B) 放射線診断・IVR 学		教授	田中 利洋	肝癌カテーテル治療における新規 DDS の臨床実用化に向けた開発と動注免疫療法への応用	2024	2028
基盤研究 (B) 第二生理学		講師	坂野 公彦	オンチップ血管モデルを基盤とした Sturge-Weber 症候群の分子病態解明と新規治療法開発	2024	2026
基盤研究 (B) 免疫学		講師	北畠 正大	肺線維症における病原性線維芽細胞の持続活性化制御による新規治療戦略の確立	2024	2027
基盤研究 (B) 皮膚科学		教授	新熊 悟	X 染色体不活性化機構を応用したモザイクマウスを用いた細胞増殖優位性獲得機序の解明	2024	2026
基盤研究 (B) 微生物感染症学		助教	鈴木 由希	医療環境と病院排水における薬剤耐性菌の実態把握と耐性遺伝子伝播要因の解明	2024	2027
基盤研究 (B) 薬理学		教授	吉栖 正典	伸展負荷による血管平滑筋細胞死でのオートファジーの役割解明と動脈硬化予防薬の開発	2025	2027
基盤研究 (B) 免疫学		教授	伊藤 利洋	組織空間的プロファイリング技術による肺線維症の病態解明と新規病理診断法の創出	2025	2028
基盤研究 (B) 発生・再生医学		助教	長岡 創	卵形成因子の機能的スクリーニングから紐解く卵巣予備能の制御機構	2026	2029
基盤研究 (B) 消化器・総合外科学		助教	中村 広太	血液細胞外小胞 RNA 統合解析による癌薬剤選択と新規血液分子サブタイプ診断システム	2026	2028
基盤研究 (B) 脳神経外科学		教室職員	中澤 務	標的指向型高分子ナノミセルを用いた生体内生成型 CAR-T/NK による膠芽腫治療法の開発	2026	2029
基盤研究 (B) 成人慢性期看護学		教授	鳥井 美江	自己免疫疾患におけるフレイルに対する包括的看護ケア戦略の確立	2026	2029
基盤研究 (C) 消化器・総合外科学		医員	寺井 太一	CA9 を標的とした肺癌の予後予測と個別化新規治療戦略の開発	2025	2026
基盤研究 (C) 数理 A I 医学		准教授	川口 良	トーリック多様体の偏極構造と凸多面体の関係の研究	2023	2026
基盤研究 (C) 輸血部		医員	坂田 飛鳥	血管透過性亢進病態における血管外凝固第 IX 因子の役割解明	2023	2026
基盤研究 (C) 血液内科学		博士研究員	堀内 久徳	高ずり応力が招く止血異常に関する研究	2023	2026
基盤研究 (C) 麻酔科学		助教	小川 裕貴	小児脊椎手術での電極付き尿道カテーテルを使用した術中排尿機能モニタリングの開発	2023	2026
基盤研究 (C) 中央手術部		助教	植村 景子	排尿機能評価として尿道括約筋から記録する球海綿体反射モニタリングの開発	2023	2026
基盤研究 (C) 総合医療学		助教	西村 信城	急性呼吸窮迫症候群の病態への ADAMTS13 への影響	2023	2026
基盤研究 (C) 寄附講座スポーツ医学講座		教授(寄附講座)	小川 宗宏	舞台芸術家の筋骨格系障害の網羅的疫学研究および予防介入の基盤構築に向けた実装研究	2024	2027
基盤研究 (C) 教育開発センター		講師	城戸 楓	生成 AI を用い SOAP に焦点化した電子カルテ用学習シミュレータの開発	2024	2028
基盤研究 (C) 母性看護学		准教授	木村 奈緒美	産後うつ予防と母親役割を向上するための IT を活用したプログラムの構築	2024	2026
基盤研究 (C) 第一生理学		教授	齋藤 康彦	カルシウム透過型 AMPA 受容体の活性化に基づく注視のメカニズム	2024	2026
基盤研究 (C) 未来基礎医学		助教	五十棲 規嘉	神経変性疾患の治療法開発に向けた亜鉛フィンガードメインの新たな機能の解明	2024	2027
基盤研究 (C) 病理診断学		教授	吉澤 明彦	胸膜肺実質線維性症の線維化を正確に捉える空間的深層学習モデルの構築	2024	2026
基盤研究 (C) オートファジー・抗老化研究センター		講師	井本 ひとみ (山本ひとみ)	加齢依存的オートファジー活性低下による肝臓がん機構の解明	2024	2026
基盤研究 (C) 免疫学		助教	王寺 典子 (下嶋典子)	新規免疫チェックポイント分子 HLA-F を標的とした免疫療法実用化に向けた基礎研究	2024	2026
基盤研究 (C) 健康管理センター		病院教授	山室 和彦	幼若期虐待モデルマウスにおけるストレス応答の変容とそのメカニズムの解明	2024	2026

研究種目	教室名 (R8.5.1)	職名 (R8.5.1)	氏名	研究課題名	開始 年度	終了 年度
基盤研究 (C)	放射線診断・IVR 学	博士研究員	佐藤 健司	運動器慢性疼痛に対するカテーテル治療における新規血管塞栓粒子の開発	2024	2026
基盤研究 (C)	放射線腫瘍医学	教授	磯橋 文明	機能情報を取り入れた放射線治療計画評価法の確立	2024	2026
基盤研究 (C)	放射線診断・IVR 学	准教授	市橋 成夫	包括的高度慢性下肢虚血患者に対する経皮的深部静脈動脈化術の確立	2024	2026
基盤研究 (C)	放射線腫瘍医学	講師	平田 岳郎	エクソソーム中のマイクロ RNA を用いた、前立腺癌に対する個別化定位放射線治療の開発	2024	2026
基盤研究 (C)	放射線診断・IVR 学	学内講師	南口 貴世介	造影 CT の細胞外容積分画を用いた肝細胞癌の Stem-like CD8 陽性 T 細胞浸潤の予測法構築	2024	2026
基盤研究 (C)	放射線診断・IVR 学	医員	山田 彩	PF-ILD のフラクタル解析と CNN 学習モデルを用いた画像診断研究	2024	2027
基盤研究 (C)	小児科学	教授	野上 恵嗣	血液凝固第Ⅷ因子制御に基づく血友病 A と血栓性疾患への新規治療薬開発の基礎研究	2024	2026
基盤研究 (C)	小児科学	博士研究員	矢田 弘史	生体内病気の環境下における血友病 A の病態解析と凝血学特性に基づく新規治療戦略の開発	2024	2026
基盤研究 (C)	小児科学	博士研究員	小田 朗永	脾臓内・外の抗 FVIII 応答制御による血友病 A インヒビター産生消失への挑戦	2024	2026
基盤研究 (C)	肝疾患相談センター	特任准教授	浪崎 正	運動療法と ADAMTS13 補充療法の併用による新たな肝硬変サルコペニアの治療戦略	2024	2026
基盤研究 (C)	消化器内科学	教授	吉治 仁志	Enhanced Drug Repositioning を用いた肝硬変合併症に対する同時制御治療法の開発	2024	2026
基盤研究 (C)	循環器内科学	教授	彦惣 俊吾	SGLT2 を起点とした左室駆出率の保たれた心不全の病態解明と新規治療標的の検討	2024	2026
基盤研究 (C)	循環器内科学	助教	中田 康紀	NADPH オキシダーゼを介した活性酸素による HFpEF の病態進展機序の解明	2024	2026
基盤研究 (C)	循環器内科学	准教授	尾上 健児	炎症性心筋疾患における心臓局所炎症細胞の機能解明	2024	2026
基盤研究 (C)	栄養管理部	病院教授	藤田 幸男	COPD のフレイル対策のための食事習慣と栄養摂取の役割－健康寿命延伸への取り組み－	2024	2026
基盤研究 (C)	皮膚科学	博士研究員	浅田 秀夫	DIHS における NK 細胞に着目した HHV-6 感染細胞の排除機構の解明	2024	2026
基盤研究 (C)	がんゲノム・腫瘍内科学	准教授	島津 裕	末梢性 T 細胞性リンパ腫に対する新規 Bispecific T cell engager の開発	2024	2026
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	助教	洲尾 昌伍	神経芽腫における免疫チェックポイント阻害剤耐性メカニズム解明と新規免疫治療の開発	2024	2026
基盤研究 (C)	中央内視鏡部	病院教授	小山 文一	大腸陰窩の細胞動態における神経の果たす役割の解明	2024	2026
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	医員	阪田 武	肝細胞癌の新規治療法構築を目的とした悪性度予測 microRNA リキッドバイオプシーの開発	2024	2026
基盤研究 (C)	集中治療部	助教	松浦 秀記	小児に対応した運動誘発電位モニタリングのための麻酔方法の開発	2024	2027
基盤研究 (C)	麻酔科学	博士研究員	園部 奨太	ヒストンメチル化酵素 SETDB2 が関与する血管内皮細胞の細胞死メカニズム	2024	2027
基盤研究 (C)	救急医学	助教	鶴田 啓亮	人工赤血球 (Hemoglobin Vesicle) による心肺停止後の脳蘇生	2024	2026
基盤研究 (C)	整形外科科学	教授	河村 健二	間葉系幹細胞移植を用いた標的化筋肉再神経支配法の開発と神経腫治療への応用	2024	2026
基盤研究 (C)	整形外科科学	博士研究員	谷口 晃	AI を利用した人工距骨の生体内動態解析	2024	2026
基盤研究 (C)	産婦人科学	医員	山本 皇之祐	ヒドロキシクロロキンをを用いた子宮内膜症の新規治療開発	2024	2026
基盤研究 (C)	産婦人科学	博士研究員	小林 浩	子宮内膜症のエネルギ代謝特性に焦点を当てた非ホルモン治療の開発	2024	2026
基盤研究 (C)	眼科学	教授	加瀬 諭	網膜ミューラー細胞のグリア間葉移行におけるアルファ B クリスタリンの関与	2024	2026
基盤研究 (C)	産婦人科学	准教授	川口 龍二	低分子量ヘパリンを術後早期から用いた肺血栓塞栓症に対する新規予防法の確立	2024	2026
基盤研究 (C)	糖尿病・内分泌内科学	助教	紙谷 史夏	免疫チェックポイント阻害薬による内分泌免疫関連有害事象のビッグデータ解析	2024	2026
基盤研究 (C)	理論基礎看護学	教授	松田 明子	RA 患者の最適な治療選択に向けた意思決定を支援する看護倫理教育プログラムの構築	2024	2026
基盤研究 (C)	実践基礎看護学	助教	白田 梨奈	がん患者の治療に伴う有害事象出現が職種別就労継続に及ぼす影響	2024	2027
基盤研究 (C)	寄附講座薬剤耐性制御学講座	講師 (寄附講座)	堀内 沙央里	海外渡航者が保菌する薬剤耐性菌の実態解明と感染コントロールを目指した包括的研究	2024	2026
基盤研究 (C)	分子病理学	博士研究員	羅 奕	がん性心筋障害に対する食事介入の検討	2024	2026
基盤研究 (C)	分子病理学	博士研究員	藤井 澄	慢性腎臓病におけるサルコペニアに対する栄養介入の検討	2024	2026
基盤研究 (C)	化学	講師	松平 崇	治療を加速させる創傷被覆材としての超分子ヘモグロビンハイドロゲルの開発	2024	2027
基盤研究 (C)	臨床病態医学	教授	山内 基雄	新たな換気応答検査と睡眠検査を活用し神経筋疾患に対する呼吸管理の精度向上を目指す	2024	2026
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	特任講師	和田 佳郎	浮動性めまいの病態を評価する VR を用いた三次元的重力感受性検査法の確立	2024	2026
基盤研究 (C)	麻酔科学	助教	川西 秀明	周術期の患者の安全性向上を目指した、口腔ケアを目的とした電子鼻 (e-Nose) の開発	2024	2026
基盤研究 (C)	循環器内科学	医員	岡村 昭彦	動脈硬化性プラーク由来エクソソームを標的とした動脈硬化に対する新規治療法の開発	2025	2027
基盤研究 (C)	中央臨床検査部	准教授	田中 裕滋	小腸特異的 LXR アゴニストの探索と TICE を標的とした NAFLD 治療への応用	2025	2027
基盤研究 (C)	研究力向上支援センター	研究支援特命講師	富樫 英	アフアディンの IDR による 液・液相分離が細胞割込みを制御する細胞の力学	2025	2027
基盤研究 (C)	第二解剖学	教授	服部 剛志	CD38 欠損による神経興奮毒性軽減メカニズムの解明と病態への応用	2025	2027
基盤研究 (C)	第二解剖学	准教授	辰巳 晃子	Olig2 系譜アストロサイトが担う抑制性神経回路の発達機構	2025	2027
基盤研究 (C)	第一生理学	助教	杉村 岳俊	舌下神経前位核の新規亜集団における神経回路と機能の解明	2025	2027
基盤研究 (C)	薬理学	助教	趙 晶	血管平滑筋細胞死でのオートファジー機構に注目した動脈解離に対する分子創薬	2025	2027
基盤研究 (C)	生化学	助教	牧野 舞	STK38 による損傷リソソーム修復の分子機構および神経変性疾患における役割の解明	2025	2027
基盤研究 (C)	第一生理学	准教授	眞部 寛之	匂いが多様な情動を惹起する神経回路機構の解明	2025	2027
基盤研究 (C)	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	オートファジー関連筋疾患におけるリソソーム機能不全の分子基盤の解明	2025	2027
基盤研究 (C)	脳神経内科学	助教	塩田 智	神経筋疾患におけるオートファジー機構破綻の機序解明	2025	2027
基盤研究 (C)	脳神経内科学	講師	江浦 信之	封入体筋炎の病態解明に向けた腸内細菌・腸管免疫の研究	2025	2027
基盤研究 (C)	脳神経内科学	助教	七浦 仁紀	遺伝性神経疾患における変性過程のダイナミクス理解とその制御	2025	2027
基盤研究 (C)	精神医学	教授	岡田 俊	成人期まで持続する注意欠如多動症の脳構造 - 神経心理 - 臨床症状に基づく病態モデル構築	2025	2027
基盤研究 (C)	精神医学	助教	池原 実伸	ASD モデルにおけるメトフォルミンの行動・前頭前野および免疫関連細胞への影響	2025	2027
基盤研究 (C)	総合画像診断センター	講師	越智 朋子	腫瘍選択性を有し、腎毒性を軽減したリポソーム造影剤の新規開発	2025	2027
基盤研究 (C)	放射線診断・IVR 学	医員	入里 真理子	TACE が引き起こす肝細胞癌の免疫微小環境変化：免疫療法とのシナジー効果の解明	2025	2027
基盤研究 (C)	放射線診断・IVR 学	助教	松本 武士	がん免疫逃避機構阻害と肝動脈塞栓術併用での免疫微小環境変化の解明と新規治療の開発	2025	2027
基盤研究 (C)	臨床研修センター	助教	大西 智子	血友病の年齢による凝血学的変化の解明と、「止血」と「抗血栓」併用の治療戦略の検討	2025	2027
基盤研究 (C)	消化器内科学	医員	高谷 広章	血液凝固制御因子 ADAMTS13 による肝癌再発予防法とバイオマーカーの開発	2025	2027
基盤研究 (C)	消化器内科学	講師	西村 典久	加齢による MASH 肝線維化進展における CHI3L1 の役割解析	2025	2027

Winner Report

研究種目	教室名 (R8.5.1)	職名 (R8.5.1)	氏名	研究課題名	開始 年度	終了 年度
基盤研究 (C)	循環器内科学	学内講師	中川 仁	左室駆出率の保たれた心不全の心臓ミネラルコルチコイド受容体への SGLT2 の作用の検討	2025	2027
基盤研究 (C)	循環器内科学	医員	浅井 祐志	健診での心房細動保有者の受診行動と医療機関受診へ繋げる体制の構築に関する研究	2025	2027
基盤研究 (C)	血栓止血先端医学講座	研究教授	辰巳 公平	炎症性肺疾患における VWF およびその関連因子の関与の解明および治療応用	2025	2027
基盤研究 (C)	微生物感染症学	博士研究員	北村 知高	ハイブリッド型複合マテリアルを用いた新規肺オルガノイドの誘導と機能解析	2025	2027
基盤研究 (C)	呼吸器内科学	非常勤講師	本津 茂人	特発性肺線維症合併肺癌における腫瘍と線維化を同時制御する新たな治療戦略の開発	2025	2028
基盤研究 (C)	腎臓内科学	講師	江里口 雅裕	唾液腺—骨連関モデルを用いた、腎疾患におけるリン代謝の解明	2025	2027
基盤研究 (C)	脳神経内科学	講師	桐山 敬生	中枢性神経免疫疾患の免疫機構と遺伝的素因を合わせた病勢バイオマーカー確立	2025	2028
基盤研究 (C)	脳神経内科学	学内講師	小林 正樹	核内相分離構造体に着目した糖尿病性末梢神経障害の病態解明と治療法開発	2025	2027
基盤研究 (C)	脳神経内科学	医員	清水 宏紀	有痛性糖尿病性末梢神経障害の病態における皮膚マクロファージ SNX25 の役割の解明	2025	2027
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	助教	國重 智裕	ユビキチン修飾系・サルコペニアを標的とした新規消化器癌治療法の開発	2025	2027
基盤研究 (C)	救急医学	講師	川井 廉之	敗血症の原因菌の情報を 1 時間以内に臨床現場に提供する迅速検査法の確立	2025	2027
基盤研究 (C)	脳神経外科学	教授	中川 一郎	虚血耐性機序を介した新規糖尿病治療薬のミトコンドリア膜電位制御の解明	2025	2027
基盤研究 (C)	寄附講座骨軟部腫瘍制御・機能再生医学講座	教授(寄附講座)	朴木 寛弥	ゲノム不安定性関連因子を標的とした小児・AYA 世代肉腫患者の予後解析と新規治療開発	2025	2027
基盤研究 (C)	整形外科	医員	田中 康仁	足荷重 CT の 3 次元画像に対する構造解析法の確立と AI を用いた評価の全自動化	2025	2028
基盤研究 (C)	泌尿器科学	博士研究員	西村 伸隆	クロノセラピーの膀胱癌光線力学的治療への応用	2025	2027
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	前花 知果	卵巣癌患者に対する liquid biopsy としての新規濾過膜の有用性の検証	2025	2027
基盤研究 (C)	産婦人科学	学内講師	山田 有紀	子宮内膜症による原始卵胞活性化メカニズムの解明と卵巣機能温存療法の新規開発	2025	2027
基盤研究 (C)	産婦人科学	医員	坂元 優太	ミトコンドリアと抗酸化物質に着目した化学療法抵抗性卵巣明細胞癌の新規治療法の確立	2025	2027
基盤研究 (C)	高度生殖医療センター	助教	岸田 和美	男性不妊の治療法の開発を目的とした精子 Autophagy の解明	2025	2027
基盤研究 (C)	産婦人科学	講師	前川 亮	人工知能を用いた腔内細菌叢による周産期合併症発症予測	2025	2027
基盤研究 (C)	形成外科	病院教授	桑原 理充	コラーゲン繊維の向きを考慮した科学的皮膚移植術の開発	2025	2027
基盤研究 (C)	口腔外科学	教授	野上 晋之介	抗サイトカイン療法による進行性下顎頭吸収の新規治療戦略の基盤構築	2025	2027
基盤研究 (C)	口腔外科学	講師	柳生 貴裕	既存薬リグロスを活用した MRONJ 予防法の確立と臨床応用	2025	2027
基盤研究 (C)	口腔外科学	博士研究員	栗原 都	高コレステロール状態における口腔癌細胞の動態とシグナル経路の解明	2025	2027
基盤研究 (C)	地域医療学講座	准教授	周藤 俊一	県境地域における地域住民の受診行動および医療提供体制の実態調査	2025	2028
基盤研究 (C)	微生物感染症学	教授	矢野 寿一	病院排水を利用した医療施設内 MRSA モニタリングシステムの新規開発	2025	2027
基盤研究 (C)	疫学・予防医学	特任教授	大林 賢史	光環境が睡眠・うつ症状・認知機能に及ぼす中長期影響：パーキンソン病コホート研究	2025	2028
基盤研究 (C)	精神看護学	教授	奥田 淳	看護師の心理的問題と要因の解明による医療観察法対象者の内省支援充実と再犯防止	2025	2028
基盤研究 (C)	成人急性期看護学	助教	堀井 えりな	在宅医療における糖尿病性足病変の予防プロトコルの構築	2025	2027
基盤研究 (C)	精神看護学	講師	橋本 顕子	統合失調症を有する男性の性的問題への支援	2025	2028
基盤研究 (C)	母性看護学	助教	山崎 愛	早産児の発達を促す支援プログラムの構築	2025	2027
基盤研究 (C)	母性看護学	教授	五十嵐 稔子	妊婦を対象とした出産恐怖感を軽減させる心理的教育プログラムの開発に向けた研究	2025	2027
基盤研究 (C)	老年看護学	助教	古角 美保子	生活指導は Vit D 不足を改善させるか：生活様式に応じた個別プログラムの開発	2025	2027
基盤研究 (C)	分子病理学	講師	谷 里奈	がん関連心筋障害における Hf β EF のモデル確立と機序解明	2025	2027
基盤研究 (C)	分子病理学	博士研究員	川原 勲	ミトコンドリアを標的とする糖尿病性フレイルの改善	2025	2027
基盤研究 (C)	臨床研究センター	学内講師	鈴木 渉太	地域における薬局アクセス：AAAQ フレームワークに基づく実態解明と多様性への対応評価	2025	2027
基盤研究 (C)	第一解剖学	講師	堀井 謹子	子の存在に起因する母性不安の新規評価法と神経基盤：母親メンタルヘルス研究の新展開	2026	2029
基盤研究 (C)	第二生理学	助教	吉田 純子	多能性幹細胞の分化系譜決定に関わる zinc finger protein の機能解析	2026	2028
基盤研究 (C)	医学研究支援センター	准教授	金子 涼輔	神経細胞の自己回避による小脳回路の精緻化メカニズム	2026	2029
基盤研究 (C)	第一解剖学	教授	井上 浩一	mTOR 関連疾患におけるリン酸化酵素 SGK1 の意義とその増殖・形態的变化への影響	2026	2028
基盤研究 (C)	医学研究支援センター	准教授	米田 明弘	転移癌と腫瘍微小環境による抗癌剤抵抗性獲得機序の解明とその応用	2026	2028
基盤研究 (C)	脳神経内科学	医員	田中 聡人	嚥下音解析と嚥下内視鏡を用いた急性期脳梗塞・神経難病の嚥下機能研究	2026	2030
基盤研究 (C)	精神医学	准教授	山内 崇平	自閉スペクトラム症におけるマクロファージ貪食能と触覚過敏の病態解明	2026	2028
基盤研究 (C)	寄附講座前立腺小線源治療講座	教授(寄附講座)	田中 宣道	前立腺癌低線量率密封小線源治療の長期成績に基づく予後予測と根治基準の確立	2026	2028
基盤研究 (C)	総合画像診断センター	学内講師	太地 良佑	アスタチン-211 を用いた α 線 - 経動脈的放射線塞栓療法の開発と腫瘍微小環境への影響	2026	2028
基盤研究 (C)	医学研究支援センター	准教授	菓子野 元郎	ミトコンドリアシグナルを標的とした放射線による正常組織障害軽減法のインビボ解析	2026	2028
基盤研究 (C)	総合画像診断センター	助教	茶之木 悠登	肝細胞癌に対する LEN 封入 Lip ピーズを用いた経肝動脈分子標的治療の前臨床的研究	2026	2028
基盤研究 (C)	放射線診断・IVR 学	医員	中野 亮汰	免疫アジュバントを併用した次世代型の肝動注免疫化学療法 (TAICE) の確立	2026	2028
基盤研究 (C)	放射線診断・IVR 学	医員	法田 祐希	FAP PET を用いた、肺癌モデルラットの AM80 併用化学療法の治療効果と CAFs 正常化の評価	2026	2028
基盤研究 (C)	小児科学	准教授	荻原 建一	小児フォン・ウィレブランド病の診断精度向上と個別化医療の基盤構築	2026	2028
基盤研究 (C)	消化器内科学	准教授	森田 祐祐	Fontan 関連肝疾患の病態機序における vWF/ADAMTS13 の役割解明と治療標的化	2026	2028
基盤研究 (C)	循環器内科学	医員	信田 紗希	冠動脈石灰化結節の OCT と NIRS の統合による in vivo 組織性状診断と個別化治療	2026	2029
基盤研究 (C)	皮膚科学	講師	正畠 千夏	表皮基底膜のラミニン 332 を介した表皮再上皮化機構の解明	2026	2030
基盤研究 (C)	病理診断学	博士研究員	秦野 修	塩誘導キナーゼ結合イントラクトームを介するステロイド産生組織の機能発現機構	2026	2028
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	医員	黒田 靖浩	マルチオミクス解析を用いた高リスク神経芽腫に対する新規治療標的探索	2026	2028
基盤研究 (C)	乳腺センター	講師	赤堀 宇広	エクソソーム miRNA による免疫関連有害事象予測診断システムの開発	2026	2028
基盤研究 (C)	がんゲノム・腫瘍内科学	医員	巽 孝成	AFP 産生胃癌の細胞系譜と分化軌跡の統合的解明に基づく新規治療戦略の基盤構築	2026	2028
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	助教	松尾 泰子	CMS 分類を用いた Borderline resectable 大腸癌肝転移術前予測と個別化治療戦略の構築	2026	2028
基盤研究 (C)	胸部・心臓血管外科学	准教授	濱路 政嗣	新しい生体吸収性ステープルによる内視鏡手術の探索的実験	2026	2028
基盤研究 (C)	第二解剖学	講師	石川 達也	慢性疼痛時生じる自律神経機能異常の発症機序解明：痛み刺激に応答する神経細胞の役割	2026	2028

研究種目	教室名 (R8.5.1)	職名 (R8.5.1)	氏名	研究課題名	開始年度	終了年度
基盤研究 (C)	薬理学	准教授	中平 毅一	ミトコンドリア DNA の変異制御に基づく敗血症治療薬の探索	2026	2028
基盤研究 (C)	脳卒中センター	病院教授	山田 修一	脳梗塞新規治療薬の開発に向けた幹細胞および conditioned medium の基礎的研究	2026	2028
基盤研究 (C)	脳神経外科学	准教授	西村 文彦	臍帯血由来 CAR-NK 細胞によるテモゾロミド併用腫瘍治療法の開発	2026	2028
基盤研究 (C)	リハビリテーション医学	准教授	稲垣 有佐	生体内少量・微量元素によるオートファジー調節を介したヒト人工多能性幹細胞の骨分化	2026	2029
基盤研究 (C)	泌尿器科学	講師	中井 靖	フェロトーシス抑制を標的とした前立腺癌放射線抵抗性の克服	2026	2029
基盤研究 (C)	産婦人科学	医員	福井 陽介	原始卵胞活性化におけるオートファジーの役割と制御機構の解明	2026	2028
基盤研究 (C)	産婦人科学	医員	脇 啓太	メタトランスクリプトーム解析を用いた腔内環境の機能解析に基づく早産機序の解明	2026	2028
基盤研究 (C)	産婦人科学	博士研究員	山中 彰一郎	子宮内膜中の炎症性サイトカインを指標とした臨床的慢性子宮内膜炎の診断法の開発	2026	2028
基盤研究 (C)	病理診断学	准教授	内山 智子	子宮体がんの術前再発低リスク群検出のためのマルチモーダル深層学習モデルの構築	2026	2028
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	木村 麻衣	Dydrogesterone 経口投与の切迫流産に対する治療の効果の検討	2026	2028
基盤研究 (C)	産婦人科学	医員	松岡 基樹	抗アンドロゲン作用に着目した子宮内膜症からの次世代卵巣保護戦略	2026	2028
基盤研究 (C)	産婦人科学	医員	藤井 健太	心音心電図計を用いた新生児の心音 / 心電データベース構築	2026	2028
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	木村 隆浩	スフェロイドを用いた頭頸部癌におけるがん微小環境と EMT 誘導の解析	2026	2028
基盤研究 (C)	眼科学	講師	辻中 大生	内因性メラニン産生による新しい加齢黄斑変性治療	2026	2029
基盤研究 (C)	救急医学	講師	浅井 英樹	通信指令員による AED 口頭指導の効果と実効性の検証	2026	2028
基盤研究 (C)	臨床研究センター	講師	伊藤 雪絵	救急現場における倫理的対応能力向上を目指した教育プログラムの開発と有効性の検証	2026	2029
基盤研究 (C)	臨床研究センター	講師	武内 治郎	PHR を活用した就労者向け熱中症リスク評価数理モデルの実装に向けた基盤的研究	2026	2030
基盤研究 (C)	臨床研究センター	講師	倉上 弘幸	臨床研究における品質管理基準と効率的な運用のための指標の構築	2026	2028
基盤研究 (C)	微生物感染症学	講師	中野 章代	ワンヘルスに基づく昆虫による薬剤耐性菌の拡散・抑制機構解明	2026	2028
基盤研究 (C)	県民健康増進支援センター	特任教授	富岡 公子	後期高齢者歯科健診が健康寿命・社会保障費に及ぼす影響に関する歴史的コホート研究	2026	2028
基盤研究 (C)	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾	冬の住居内温度と心血管疾患罹患・死亡に関する中長期縦断研究	2026	2028
基盤研究 (C)	疫学・予防医学	准教授	田井 義彬	自殺リスク日内変動の規定要因の解明	2026	2028
基盤研究 (C)	実践基礎看護学	教授	升田 茂章	限局性前立腺がん患者の生活を基盤とした治療選択を支えるディシジョン・エイドの開発	2026	2028
基盤研究 (C)	実践基礎看護学	助教	多川 聖子	急性期一般病棟における口腔機能管理のための看護介入モデルの開発と検証	2026	2028
基盤研究 (C)	成人慢性期看護学	講師	山内 洋子	認定看護師を対象としたがん関連認知機能障害に関する教育プログラムの開発と評価	2026	2028
基盤研究 (C)	母性看護学	助教	吉田 菜津美	分娩期における Missed Nursing Care を測定する尺度開発	2026	2028
基盤研究 (C)	公衆衛生看護学	講師	巖 素代	地域アセスメント手法を用いた不登校の要因分析	2026	2028
基盤研究 (C)	公衆衛生看護学	助教	近藤 いずみ	20 代の自殺リスクの空間的偏在と地域構造要因：全国市区町村レベルの GIS 分析	2026	2028
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	学内講師	塩崎 智之	リアルタイムモニタリングを用いたオンライン前庭リハビリテーションの開発と効果検証	2026	2028
基盤研究 (C)	在宅看護学	助教	羽場 香織	成人人工内耳装用者が「新しい聞こえ」に適応するまでの実態	2026	2029
基盤研究 (C)	リハビリテーション医学	教授	城戸 顕	急性期診療における活動の快情動（心地よさ）を基盤とする新しい身体拘束最小化戦略	2026	2028
基盤研究 (C)	臨床研究センター	教授	笠原 正登	プロボクシングにおける重大有害事象の予測因子解析と安全基準策定に関する研究	2026	2028
基盤研究 (C)	数理 A I 医学	教授	野島 陽水	深層学習を用いたエスケープ変異ウイルスに対する中和抗体の最適化	2026	2028
基盤研究 (C)	中央手術部	医員	川瀬 小百合	プログレッシブアプリと VR を用いた術前介入が帝王切開後の回復度に及ぼす影響の検討	2026	2028
若手研究	がんゲノム・腫瘍内科学	講師	大田 正秀	癌幹細胞における免疫チェックポイント阻害剤耐性機構の解明	2023	2026
若手研究	感染症内科学	准教授	今北 菜津子	病原体を考慮した敗血症性脳症のマウスモデルの確立と病態解明	2023	2026
若手研究	中央手術部	学内講師	位田 みつる	入院前のオレキシン受容体拮抗薬の投与が入院後の睡眠と術後回復に及ぼす影響	2023	2026
若手研究	寄附講座地域医療支援・教育学講座	講師(寄附講座)	川崎 佐智子	頸椎症性脊髄症の痺れの可視化	2023	2027
若手研究	公衆衛生学	准教授	次橋 幸男	在宅医療における多職種協働によるケアの実態把握とアウトカム評価	2023	2026
若手研究	発生・再生医学	助教	池田 宏輝	生体内における卵母細胞の転写・翻訳活性の分子制御機構の解明	2024	2026
若手研究	総合医療学	講師	大野 史郎	不明熱診療の質の改善のための診断アルゴリズムの作成とその実用性の検証	2024	2026
若手研究	中央放射線部	係長	山谷 裕哉	IVIM 解析を用いたステントグラフト内挿術後のエンドリークによる瘤拡大の予後予測	2024	2026
若手研究	小児科学	博士研究員	古川 晶子	友友病 A 治療におけるインヒビター発生抑制を目指した分子細胞免疫学的解析	2024	2027
若手研究	血栓止血先端医学講座	助教	三谷 成二	幹細胞技術を用いた in vitro 肝臓洞モデルの構築と肝線維化・炎症病態の解明	2024	2026
若手研究	消化器内科学	助教	岩井 聡始	ミトコンドリア機能を標的とした NASH 関連サルコペニアの治療開発	2024	2026
若手研究	消化器・総合外科学	学内講師	長井 美奈子	切除不能肺癌に対する新規血中バイオマーカーを用いた予後予測遺伝子パネルの開発	2024	2026
若手研究	救急医学	講師	奥田 哲教	脊髄損傷に対する骨格筋刺激装置併用ゲームを用いた新規リハビリテーション技術の開発	2024	2026
若手研究	泌尿器科学	助教	森澤 洋介	ラット膀胱における尿再吸収機構と膀胱時計遺伝子の成長に伴う変化の解明	2024	2026
若手研究	産婦人科学	助教	河原 直紀	卵巣明細胞癌における特異なエネルギー代謝に関する研究	2024	2026
若手研究	口腔外科学	助教	中村 泰士	口腔癌に対するセツキシマブ療法における ADCC 活性増強の試み	2024	2026
若手研究	口腔外科学	博士研究員	高橋 佑佳	味蕾および舌上皮の細胞増殖と維持・再生機構の解明	2024	2026
若手研究	医学研究支援センター	博士研究員	西村 和樹	酸化的 DNA 損傷サイクロプリンは色素性乾皮症患者の脳に蓄積するか？	2024	2026
若手研究	脳神経外科学	助教	森崎 雄大	脳神経外科手術における筋電図付き胃管を用いた下位脳神経モニタリングの開発	2024	2028
若手研究	第二生理学	研究助教	梶谷 卓也	細胞周期とエピゲノムの連動の観点からのシングルセル生物学	2025	2027
若手研究	血栓止血先端医学講座	博士研究員	野田 正志	Tissue factor 遺伝子改変マウスを用いた急性肝炎の病態解明および治療応用	2025	2027
若手研究	病理診断学	講師	阪口 真希	実質臓器におけるモザイク LOY アトラスの構築と腫瘍発生における意義の解明	2025	2026
若手研究	胸部・心血管外科学	助教	宮田 亮	EGFR-TKI 治療耐性後の免疫療法に向けた腫瘍免疫微小環境のプレコンディショニング	2025	2027
若手研究	分子動態創薬共同研究講座	助教(共同研究講座)	中西 真理	疾患特異的 HLA 多型の分子構造解析	2025	2027
若手研究	精神医学	講師	高田 涼平	マクロファージのシナプス貪食に着目した統合失調症・自閉スペクトラム症の病態解析	2025	2028
若手研究	高度救命救急センター	技師	井上 正義	放射線治療における細径針で注入可能な新規生体吸収性ゲル状スプレーの開発	2025	2027

Winner Report

研究種目	教室名 (R8.5.1)	職名 (R8.5.1)	氏名	研究課題名	開始年度	終了年度
若手研究	放射線診断・IVR 学	助教	國近 瑛樹	EOB-MRI 肝細胞相の不均一性に着目した肝細胞癌の新規バイオマーカーの開発	2025	2026
若手研究	小児科学	助教	中島 由翔	血友病 A における高機能型第 VIII 因子製剤開発の基礎研究	2025	2027
若手研究	寄附講座血栓止血分子病態学講座	講師 (寄附講座)	下西 成人	血栓症を呈した凝固第 V 因子の変異における凝固バランス機構の解明	2025	2027
若手研究	皮膚科学	助教	光井 康博	HHV-6 受容体としての OX40 とその可溶性分子に着目した GVHD のバイオマーカーの探索	2025	2027
若手研究	総合医療学	准教授	矢田 憲孝	関節リウマチ・SLE の炎症・血栓に対する NETs- 血小板-VWF 軸を標的とした新規治療法	2025	2027
若手研究	教育開発センター	研究助教	三須 政康	住血吸虫症に対する複数抗原型免疫の確立と感染制御の試み	2025	2027
若手研究	胸部・心臓血管外科学	助教	山梨 恵次	ミトコンドリア機能に着目した 10℃冷却保存による心停止ドナー肺保存の実証的研究	2025	2027
若手研究	麻酔科学	博士研究員	甲谷 太一	心臓血管外科周術期におけるプレハビリテーション介入研究	2025	2028
若手研究	中央手術部	助教	奥田 千愛	人工赤血球を用いた一酸化炭素投与が脳神経系に与える影響	2025	2027
若手研究	麻酔科学	助教	紺田 眞規子	ARDS における ADAMTS4 による Glycocalyx 分解の分子基盤の解明	2025	2027
若手研究	脳神経外科学	博士研究員	佐々木 弘光	メラトニン動注による新たな脳保護療法の開発	2025	2028
若手研究	泌尿器科学	講師	後藤 大輔	食塩負荷が膀胱時計遺伝子に影響を与える機序の解明	2025	2027
若手研究	眼科学	助教	平井 宏昌	血管内皮細胞障害マーカーに着目した糖尿病網膜症の重症度予測法確立	2025	2027
若手研究	成人急性期看護学	講師	森脇 裕美	腰痛を有する看護師の立位姿勢と足の形態・機能の関連	2025	2027
若手研究	小児科学	特任助教	廻角 侑弥	血友病患者における体成分分析を用いた新しい身体機能評価指標の確立	2025	2026
若手研究	公衆衛生看護学	准教授	堀池 諒	地理情報システムを用いた災害時リアルタイム多層位情報システムの開発	2025	2028
若手研究	精神医学	助教	奥村 和生	次世代電子カルテに必要となる機械可読な構造化データとオントロジーを扱う基盤の検討	2025	2027
若手研究	生化学	助教	志摩 喬之	リソソーム膜損傷誘導性細胞老化の分子機構と生理的意義の解明	2026	2027
若手研究	脳神経内科学	医員	井口 直彦	ジंकフインガードメインに着眼した筋萎縮性側索硬化症の病態機序解明	2026	2028
若手研究	精神医学	博士研究員	浦谷 光裕	ASD 児への親子共同個別ソーシャルスキルトレーニングの効果と脳機能評価による検証	2026	2028
若手研究	精神医学	助教	水井 亮	感覚処理と自律神経の特徴からみた自閉スペクトラム症児の不適応行動の病態モデル構築	2026	2028
若手研究	精神医学	助教	西 佑記	自閉スペクトラム症におけるマクロファージの貪食機能異常の解明と新規治療標的の探索	2026	2029
若手研究	放射線診断・IVR 学	講師	岩越 真一	ラボナイトゲルによる血管損傷後リモデリング制御と大動脈瘤治療への応用	2026	2027
若手研究	中央放射線部	係長	井上 健	レンパチニブを併用した肝動脈化学塞栓術における新規造影剤注入プログラムの開発	2026	2028
若手研究	放射線診断・IVR 学	博士研究員	立入 哲也	immune boost TACE のアプスコバル効果と FDG-PET による ICI 導入評価	2026	2028
若手研究	小児科学	講師	石川 智朗	血友病 B インヒビター陽性例における免疫介在性ネフローゼ症候群の独創的病態解明	2026	2028
若手研究	NICU	博士研究員	水町 邦義	超早産児における Hib ワクチン応答の予測因子と抗体持続性	2026	2030
若手研究	消化器内科学	助教	芝本 彰彦	GLP-1 受容体を標的としたアルコール性肝炎関連サルコペニアの治療開発	2026	2028
若手研究	消化器内科学	学内講師	藤永 幸久	亜鉛欠乏と原発性胆汁性胆管炎合併症の関連解明 - 新たな合併症発症の予防施策の検索	2026	2030
若手研究	循環器内科学	助教	経堂 篤史	機械学習による左室収縮能非依存的心不全新分類と分子基盤解明	2026	2028
若手研究	呼吸器内科学	医員	藤岡 伸啓	脂肪由来間葉系幹細胞を用いた毛細血管網と肺上皮の同時再生による COPD 治療法の開発	2026	2029
若手研究	腎臓内科学	医員	玉城 裕行	CKD-MBD の新規治療標的としての Osteoclast-associated receptor (OSCAR) の検証	2026	2028
若手研究	泌尿器科学	助教	富澤 満	臓器移植免疫抑制剤による腸内細菌叢の変化が骨格筋および骨障害を誘発する機序の解明	2026	2028
若手研究	消化器・総合外科学	学内講師	横谷 倫世	T 細胞不活化分子 CD200 を標的としたトリプルネガティブ乳癌に対する新規治療法の開発	2026	2028
若手研究	中央手術部	准教授	田中 暢洋	侵害受容モニター指標下鎮痛プロトコルの標準化と実装 - ロボット支援前立腺全摘モデル	2026	2030
若手研究	免疫学	助教	古川 龍太郎	ARDS における転写因子 FOXO1 を介したシグナル伝達経路の機能解明と治療への応用	2026	2028
若手研究	脳神経外科学	助教	中瀬 健太	領域別発光刺激電極による新規術中視覚誘発電位モニタリングの開発	2026	2029
若手研究	脳神経外科学	助教	松岡 龍太	除圧効果を反映する術中脊髄モニタリングの開発	2026	2028
若手研究	脳神経外科学	学内講師	横山 昇平	頸動脈ステント留置後ブラーク突出メカニズムにおける血管壁圧規定因子の解明	2026	2027
若手研究	糖尿病・内分泌内科学	助教	中島 拓紀	日本人悉皆レセプトビッグデータを用いた先端巨大症の病態解明	2026	2028
若手研究	成人急性期看護学	准教授	松田 常美	看護師による POCUS を活用したストーマサイトマーキングの実用性と臨床的意義の検証	2026	2028
若手研究	精神医学	非常勤講師	木納 潤一	統合失調症地域医療における代償的支援モデル実装研究 - ACDM-OT の多施設展開	2026	2030
若手研究	精神看護学	講師	高島 佳之	精神科訪問看護利用者のリカバリーを促進する共同創造型ケアモデルの開発	2026	2029
若手研究	分子病理学	博士研究員	額賀 翔太	がん患者における DNA 結合赤血球を介した骨格筋萎縮機構の解明と制御戦略の開発	2026	2027
若手研究	分子病理学	博士研究員	西田 亮一	中鎖脂肪酸カプリル酸による加齢性フレイルの骨格筋機能改善	2026	2027
若手研究	脳神経外科学	助教	佐々木 亮太	陰部テタヌス刺激による術中 MEP 増幅法の小児開頭手術における最適化とその応用	2026	2028
挑戦的研究 (萌芽)	分子病理学	教授	國安 弘基	がん性心筋・骨格筋障害のマーカーとしての DNA 結合赤血球	2025	2027
挑戦的研究 (萌芽)	生化学	講師	堀川 誠	線虫の低温休眠現象を制御する分子メカニズムの解明	2025	2026
研究活動スタート支援	オートファジー・抗老化研究センター	特別研究員	大角 泰一	老化に伴うリソソーム恒常性破綻誘導メカニズムの解明	2025	2026
研究活動スタート支援	整形外科	医員	百田 吉伸	統計的形狀モデルによる変形性膝関節症の病態の解明	2025	2026
研究活動スタート支援	がんゲノム・腫瘍内科学	医員	巽 孝成	オミクス解析による AFP 産生胃癌の癌微小環境解明と新規治療標的の同定	2025	2026
研究活動スタート支援	口腔外科学	医員	新子 寿未	bFGF 製剤の局所投与による薬剤関連顎骨壊死 (MRONJ) 予防効果の検証	2025	2026
研究活動スタート支援	戦略的医療情報連携推進講座	助教 (戦略的医療情報連携推進講座)	須河 裕也	大規模レセプトデータによって明らかにする敗血症患者への早期栄養療法の効果	2025	2026
研究活動スタート支援	疫学・予防医学	助教	山上 優紀	高齢者における難聴は自宅の寝室内騒音と睡眠の質の関連に影響を与えるか	2025	2026
特別研究員奨励費	第二生理学	学振特別研究員 (PD)	小野寺 悠	血友病 A 根治に向けた血液凝固第 VIII 因子産生 iPS 細胞の作製と細胞治療	2025	2027
特別研究員奨励費	化学	学振特別研究員 (RPD)	久禮 智子	災害・緊急時の代替輸血製剤を目指した新しい高分子修飾リボソーム型人工赤血球の創製	2025	2027
特別研究員奨励費	発生・再生医学	助教	高島 友弥	卵巣オルガノイドを用いた卵巣予備能の形成機構の解明	2024	2026

未来への飛躍基金だより

未来への飛躍基金への感謝 ＊海外リサーチ・クラークシップ（2025年度活動報告より）

未来への飛躍基金では、海外リサーチ・クラークシップでの交通費、宿泊費、実習費の一部を助成しています。令和8年1月～3月に海外の研究室で実習を行った皆さんをご紹介します。寄附者の皆様からのご支援に心から感謝申し上げます。

米国 The Ohio State University Wexner Medical Center

（所属）Taniguchi Lab

（当時）医学科2年 片山 俊

今回のオハイオ州立大学へのリサーチ・クラークシップにあたり、多大なるご支援を賜りました未来への飛躍基金の関係者の皆様に、心より厚く御礼申し上げます。皆様からの手厚いご支援があったからこそ、経済的な不安を抱えることなく、世界最高峰の研究環境である谷口ラボでの研究活動に全力を注ぐことができました。また、現地で研究から生活面（観光や食事など）に至るまで、親身になって熱心にご指導・サポートいただきました谷口先生、早野先生にもこの場を借りて深く感謝申し上げます。この2ヶ月間で得た最先端の医学的知見と、タフな環境を乗り越えた経験は、私のキャリアにおける揺るぎない礎となりました。今後は、本実習で培った論理的思考力とグローバルな視野を活かし、将来の医学の発展に貢献できる人材となれるよう、残りの学生生活においてより一層の研鑽を積んで参ります。



脳神経の世界的権威である谷口先生と

カナダ University of Alberta Faculty of Medicine and Dentistry

（所属）Yokota Lab

（当時）医学科2年 尾崎 祐太

海外リサーチ・クラークシップにご援助いただき深く感謝申し上げます。研究に興味を持つ私にとって海外での研究実習の機会はとても魅力的でしたが同時に様々な不安もありました。私がリサーチ・クラークシップの派遣先として海外を選ぶ際のハードルを下げた要因の一つは金銭面でのご支援であったと強く思います。海外で研究に携わることで日本とは異なる研究の方針や倫理、考え方に触れ自分の見識をより深めることができました。また日常生活でも周りを観察したり、博物館等に行ったりしてカナダの文化を知り、感じました。医学、研究以外の面でも成長をすることができたと思います。この海外リサーチ・クラークシップで得られた経験を自分の今後の研究生活、そして人生に活かしていきたいと思っています。



qRT-PCRのためのcDNAを合成中

日本 Okinawa Institute of Science and Technology Graduate University (OIST)

（所属）Cell Proliferation and Gene Editing Unit

（当時）医学科2年 中村 春香

この度は、未来への飛躍基金よりご支援を賜り、OISTにおける二か月間のリサーチ・クラークシップに参加する機会をいただき、心より感謝申し上げます。本実習では、最先端の研究環境の中で実際の研究プロジェクトに携わることができ、研究の進め方や実験技術のみならず、研究に向き合う姿勢や国際的な研究環境の中でのコミュニケーションの重要性など、多くのことを学ぶことができました。こうした経験は、将来医師・研究者として社会に貢献していくうえで大きな財産になると感じています。今回の貴重な経験は、未来への飛躍基金のご支援があってこそ実現したものです。いただいた機会を糧に、今後も研究や学業に真摯に取り組み、将来社会に還元できる人材となれるよう努力してまいります。



ラボの方々とランチ

米国 University of Michigan Medical School

（所属）Kamada Lab

（当時）医学科2年 柴田 結心

今回このような貴重な機会をいただくことができたのは未来への飛躍基金のご支援があったからこそです。海外の研究室を経験し、世界の研究環境を実際に体験することができたことは、私にとって非常に大きな財産となりました。今回の経験を今後の学びや研究活動に活かし、医学の発展に少しでも貢献できるよう努力していきたいと思います。このような機会をご支援くださった基金関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。



ラボのメンバーと

（所属）Bethany Moore Lung Immunobiology Lab

（当時）医学科2年 田中 文康

本実習にあたって、航空賃や宿泊費への助成金を提出していただいた未来への飛躍基金の関係者様には、心からの感謝を申し上げます。この実習で学んだことは今後の研究活動の糧とし、奈良県立医科大学の発展に寄与してまいります。



実験中にて

台湾 National Taiwan University and National Taiwan University Hospital

（所属）Department of Internal Medicine

（当時）医学科2年 片山 恒

このような貴重な海外研究留学の機会を与えてくださり、多大なるご支援を賜りました未来への飛躍基金の関係者の皆様に深く感謝申し上げます。本実習を通じて得られた科学的思考力、実践的な研究手技、そして国際的なネットワークは、私の今後の医師・研究者としてのキャリアにおいてかけがえのない財産となりました。この経験を糧に、将来は医学の発展に貢献できるよう、より一層の精進を重ねてまいります。ご支援いただいた皆様、そしてご指導いただいた国立台湾大学病院および奈良県立医科大学の先生方に心より御礼申し上げます。



ラボのメンバーと

（所属）Department of Surgery

（当時）医学科2年 朱 英里

未来への飛躍基金からの多大なるご支援のおかげで、国立台湾大学という素晴らしい環境のもと、臨床研究に専念することができました。海外のトップレベルの施設で実際のデータに触れ、最先端の医療現場を肌で感じたことは、将来医師として歩むうえで非常に得難い、かけがえのない経験となりました。国境を越えて視野を広げ、研究のプロセスを実践的に学べたこの貴重な機会は、皆様のご支援なくては決して実現できないものでした。医師としてのキャリアにおける大きな財産となる機会と、温かいご支援を賜りましたこと、心より深く感謝申し上げます。



ラボの先生と手術室で

【奈良県立医科大学 総務広報課 未来への飛躍基金】

TEL : 0744-22-3051（内線 2803） E-mail : hiyakukikin@naramed-u.ac.jp

【未来への飛躍基金 HP】 <https://hiyakukikin.naramed-u.ac.jp> または「未来への飛躍基金」で検索！



大学院入試日程

令和 8 年度 秋入学 大学院医学研究科（博士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
医科学	若干名	令和 8 年 7 月 7 日（火）～ 7 月 10 日（金）	令和 8 年 7 月 27 日（月）	令和 8 年 9 月 8 日（火）

● 社会人※の入学も可能です。 ● 社会人には、長期履修制度を設けています。

令和 9 年度 大学院医学研究科（博士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
医科学	40	第一次募集 令和 8 年 10 月 6 日（火）～ 10 月 9 日（金）	第一次募集 令和 8 年 11 月 2 日（月）	第一次募集 令和 8 年 12 月 8 日（火）
		第二次募集 令和 9 年 1 月 5 日（火）～ 1 月 8 日（金）	第二次募集 令和 9 年 1 月 25 日（月）	第二次募集 令和 9 年 3 月 9 日（火）

● 社会人※の入学も可能です。 ● 社会人には、長期履修制度を設けています。 ● 一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。 ● 令和 9 年度秋入学の実施については未定です。 ● 大学院修学資金貸与制度（要件を満たした場合返還免除）があります。

令和 9 年度 大学院医学研究科（修士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
医科学	5	第一次募集 令和 8 年 10 月 6 日（火）～ 10 月 9 日（金）	第一次募集 令和 8 年 11 月 2 日（月）	第一次募集 令和 8 年 12 月 8 日（火）
		第二次募集 令和 9 年 1 月 5 日（火）～ 1 月 8 日（金）	第二次募集 令和 9 年 1 月 25 日（月）	第二次募集 令和 9 年 3 月 9 日（火）

● 社会人※の入学も可能です。但し、令和 9 年 3 月 31 日までに概ね 1 年以上の実務経験を有することが必要です。

● 一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。

令和 9 年度 大学院看護学研究科（博士前期課程）

コース	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
看護学コース	5	第一次募集 令和 8 年 7 月 16 日（木）～ 7 月 23 日（木）	第一次募集 令和 8 年 8 月 24 日（月）	第一次募集 令和 8 年 9 月 8 日（火）
助産学実践コース	5	第二次募集 令和 8 年 10 月 16 日（金）～ 10 月 22 日（木）	第二次募集 令和 8 年 12 月 1 日（火）	第二次募集 令和 8 年 12 月 8 日（火）

● 社会人※の入学も可能です。ただし、令和 9 年 3 月 31 日までに概ね 1 年以上の実務経験を有することが必要です。 ● 社会人には、長期履修制度を設けています。

● 本学学部からの進学者、奈良県内に住所を有し要件を満たす者については入学金が免除される入学金免除制度があります。

● 高度実践コース（クリティカルケア看護分野、がん看護分野）及び助産学実践コースについては、修業中は学業に専念できる者とします。

● 一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。

※ 社会人とは医療・保健・福祉施設、教育・研究機関、企業、官公庁等に勤務し、入学後もその職を有する者です。

令和 9 年度 大学院看護学研究科（博士後期課程）

分野	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
生涯発達看護学分野	2	第一次募集 令和 8 年 7 月 16 日（木）～ 7 月 23 日（木）	第一次募集 令和 8 年 8 月 24 日（月）	第一次募集 令和 8 年 9 月 8 日（火）
療養・生活支援看護学分野		第二次募集 令和 8 年 10 月 16 日（金）～ 10 月 22 日（木）	第二次募集 令和 8 年 12 月 1 日（火）	第二次募集 令和 8 年 12 月 8 日（火）

● 社会人※の入学も可能です。ただし、令和 9 年 3 月 31 日までに概ね 1 年以上の実務経験を有することが必要です。 ● 社会人には、長期履修制度を設けています。

● 本学大学院看護学研究科博士前期課程からの進学者、奈良県内に住所を有し要件を満たす者については入学金が免除される入学金免除制度があります。

● 一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。

※ 社会人とは医療・保健・福祉施設、教育・研究機関、企業、官公庁等に勤務し、入学後もその職を有する者です。

教育支援課：医学研究科担当 内線 2716 / 看護学研究科担当 内線 692139

編集後記

真夏の日差しの中、蝉の元気な声が響く季節となりました。今回も、皆様のご協力により、第 97 号学報を発行することができました。ご寄稿、ご支援いただきました皆様に、深く感謝申し上げます。厳しい暑さが続きますが、皆様におかれましては、どうぞご自愛のうえ健やかにお過ごしください。



公開講座情報

奈良医大×橿原市みんなで学ぼう！糖尿病教室 ～めざせ！糖尿病博士～

昨年度好評だった奈良医大と橿原市合同の「イチからわかる！糖尿病教室」がパワーアップ！ 糖尿病の入り口に焦点をあて、各分野のエキスパートが楽しく・わかりやすい説明をします。最近血糖値が気になる方やそのご家族の方はぜひご参加ください。

日 時：

第1回	7月17日(金)	糖尿病ってどんな病気？ ～合併症もふまえて～
第2回	7月30日(木)	糖尿病と歯周病の関係
第3回	9月4日(金)	バランスの良い食事とは？ ～普段の食事の振り返り～
第4回	10月30日(金)	美と健康のためのアンチエイジング ～今日から始める糖尿病対策の運動習慣～
第5回	12月4日(金)	糖尿病と高血圧の関係 ～やってみよう！減塩～
第6回	2月12日(金)	同窓会～これからも健康でいるために～

対 象 者：18歳～64歳の橿原市内在住・在勤の方

時 間：午後1時30分～3時00分

場 所：橿原市保健センター北館(第2回のみミグランス 2F)

定 員：先着30名

主 催：奈良県立医科大学附属病院 糖尿病・内分泌内科、
栄養管理部、橿原市 健康スポーツ部 健康増進課

参 加 費：無料

問合せ・申し込み：橿原市 健康スポーツ部健康増進課

TEL 0744-22-8331

The donation person name

寄附者ご芳名

「未来への飛躍」基金にご協力いただきありがとうございました

平素より未来への飛躍基金へのご理解とご支援をいただき、心から御礼申し上げます。今号では令和8年4月～令和8年6月にご寄附いただいた方々のご芳名を掲載しております。

【個人】	◆100万円以上	岡田 巖 様	掲載を希望されない寄附者様 2名
	◆30万円以上100万円未満	奥田 宏純 様 鈴木 秀夫 様 宮田 重樹 様	掲載を希望されない寄附者様 2名
	◆10万円以上30万円未満	長島 弘 様	掲載を希望されない寄附者様 3名
	◆10万円未満	坂田 一眞 様 坂田 達紀 様 藤田 剛史 様 本田 孝雄 様 松本 雅充 様	掲載を希望されない寄附者様 3名
	◆金額の公表を希望されない寄附者様	阪本 晃 様 長谷川裕一 様 福住 明夫 様	
【法人】	◆100万円以上	アステッキホールディングス株式会社 様	

未来への飛躍基金だより

紺綬褒章伝達式を執り行いました

未来への飛躍基金にご寄附をいただきました齊藤正幸氏(H7年医学科卒業)に対し、紺綬褒章が授与されました。本学において伝達式を執り行い、嶋理事長・学長から章記と褒章を伝達するとともに、ご寄附への感謝の気持ちをお伝えしました。



令和8年4月28日

後列：木村副理事長、上野法人企画部長
前列：嶋理事長・学長、齊藤正幸氏、齊藤弥穂氏

紺綬褒章のご案内

紺綬褒章は国の褒章制度の一つで、公益のために私財を寄附された方に授与される褒章です。未来への飛躍基金に500万円以上のご寄附をいただいた方(個人)及び1,000万円以上のご寄附をいただいた団体は、紺綬褒章授与の対象となります。あらかじめ分納のお申し出をいただいたご寄附も含まれます。未来への飛躍基金にご寄附をいただき、紺綬褒章申請を希望される場合は、分納のお申し出と合わせて総務広報課までお問合せください。

Media Listing Information

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生を紹介します。

日付	媒体	対象者	掲載概要
2026年	2月17日	日経チャンネル	呼吸器内科学 教 授 室 繁郎
4月13日	奈良新聞デジタル	呼吸器内科学	NEXT KANSAI フォーラム 2026 ～大阪・関西万博のレガシーを次世代に～ 仮名加工医療情報も含めた医療等情報の活用に向けた課題と今後の方向
4月16日	週刊 医師の視点	呼吸器内科学	その息切れや咳、年のせいではないかも (1) COPD の症状・原因・隠れたリスク その息切れや咳、年のせいではないかも (2) COPD の診断法と最新治療、予防のポイント
4月14日	時事メディカル Yahoo! ニュース	化学 血液内科学	常温 2 年保存の人工赤血球開発 ～奈良県立医大が臨床試験進める～
4月19日	奈良新聞	疫学・予防医学	大和ハウスと県医大が協働 成人 200 人を対象、住環境探る 住宅商品の開発を目指して 良質な睡眠を研究
4月21日	奈良新聞		副 理 事 長 木村 茂和 理 理 西橋 奈穂 法人企画部長 上野 聡
5月1日	NHK 奈良 ならナビ	産学官連携推進センター	電力データで体調変化を先読み奈良女子大学寮で “ 五月病 ” 予防プロ ジェクト始動の様子が放送される予定
5月10日	奈良新聞 医師の視点	呼吸器内科学	その息切れや咳、年のせいではないかも COPD (慢性閉塞性肺疾患) とは？
5月11日	奈良新聞デジタル	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	めまいを知る (1) めまいを引き起こす「耳石」とは
5月14日	週刊 医師の視点	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	めまいを知る (2) 寝る姿勢で症状が改善することも
5月15日	産経新聞	救急医学	理事・学長 嶋 緑倫 教 授 福島 英賢
5月29日	奈良新聞 医療特集	呼吸器内科学	事件現場に医療チーム 人命救助の体制強化 県警と県立医大協定
6月4日	NHK 甲府	公衆衛生学	COPD (慢性閉塞性肺疾患) の現状と課題
6月8日	NHK 総合 あさイチ	疫学・予防医学	山梨県 医師確保のための「地域枠」制度 違約金条項を廃止へ
6月8日	奈良新聞デジタル	救急医学	特集「梅雨の健康不調」について光の浴び方を解説
6月11日	週刊 医師の視点	救急医学	救急医療の現場から (1) 命を守る “ 最後の砦 ” とは
6月14日	奈良新聞 医師の視点	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	救急医療の現場から (2) 地域を支える救急医療
6月18日	MEDICAL TRIBUNE Vol.59 No.12	公衆衛生学	超高齢社会の現代病「めまい」の話
6月23日	NHK 奈良 ならナビ/ならナビ 845	公衆衛生学	SGLT2 阻害薬とビグアナイド薬 糖尿病患者の死亡リスク低減
6月26日	NHK 総合 午後 LIVE ニュースーン	血液内科学 化学 救急医学	熱中症の周知及び注意喚起についてコメント
6月29日	NHK 奈良 ならナビ/ならナビ 845	血液内科学 化学 救急医学	理学療法士 嶋 緑倫 教 授 西岡 祐一 教 授 笠原 正登
6月30日	北海道新聞	公衆衛生学	教 授 松本 雅則 教 授 酒井 宏水 教 授 福島 英賢
7月1日	NHK 奈良 ならナビ	産婦人科学	理事・学長 嶋 緑倫 教 授 今村 知明
7月1日	奈良新聞	産婦人科学	助 教 河原 直紀
7月2日	朝日新聞	相撲部	理事・学長 嶋 緑倫
7月13日	奈良新聞デジタル	糖尿病・内分泌内科学	県内広域連携型医療セキュリティモデル 病院強化へ共同事業
7月16日	週刊 医師の視点	糖尿病・内分泌内科学	県立医大、小山、県病院協会 3 者が協定書締結
7月14日	読売新聞	精神医学	医師の卵 どうぞい躍進 県立医大 西日本の医大唯一の相撲部 新しい土俵 全国大会好成绩 31 年国スポも視野
7月14日	NHK 甲府 News かいドキ	公衆衛生学	「肥満症」は病気です (1) 人はなぜ太るのか 「肥満症」は病気です (2) 治療と予防の新常識
7月16日	朝日新聞	戦略的医療情報連携推進講座	病院サイバー防御 連携 県立医大など 人材育成、地域で共有
7月17日	読売新聞 Science&Medical	精神医学	こころナビ「子どもの夏休み 気持ち受け止め話を聴いて」 山梨県内 法定耐用年数超える病院持つ病院 全体の 3 割近くに 山梨県内 昨年度の病院経営 6 割超が「赤字」NHK 調査
			県立医大など 3 者が連携協定 医療サイバー攻撃 対策を構築
			ADHD の子 アプリで治療 慎重に相談を

メディア掲載情報をお寄せください

総務広報課 内線：2206

なかよし保育園

赤ずきんちゃんが やってくる！

なかよし保育園では、おはなしキャラバン
“つばさ”による人形劇「赤ずきんちゃん」を上演します。
どなたさまもご参加いただけますので、
お気軽にお問い合わせください。

日時 令和8年9月19日①
10:30～11:10 (開場 10:15)

場所 奈良県立医科大学
畝傍山キャンパス講堂

参加費 1 家族 500 円 (6 人まで)
※在園児家族無料
※事前申込要、席数には限りがあり、
先着順となります。

申し込み先
なかよし保育園 内線 66906

園児募集

募集の対象 0 歳から 5 歳児 (生後 57 日以降～)

開園時間 7:00～20:00

保育日 月曜から土曜日 土曜日は予約制。
金曜日は夜間保育があります。

お問い合わせ先

総務広報課
(内線 2226)

詳細はこちらを
ご覧ください

